

SONICWARE

# LIVEN

## Lofi-6

User's Manual



---

## FCC regulation warning (for USA)

Note: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

## 法的免責事項

株式会社ソニックウェア（以下「SONICWARE」といいます）は、本文書が正確かつ最新のものであることを確保すべく努力致しますが、本文書に掲載されている内容に起因するいかなる賠償要求や損失に対してもその責任を一切負わないものとします。また、本文書の情報は、予告なく変更される可能性があります。SONICWARE は、随時、製品の仕様、プログラムの変更する権利を保有するものとします。SONICWARE は、本文書に示されるすべての誤りの責任を負いません。SONICWARE は、契約、不注意、その他の行為に関わらず、本情報の使用または機能、性能から生じるいかなる損害に対しても、責任を負いません。

## 著作権、登録商標について

- ・ SONICWARE は株式会社ソニックウェアの登録商標です。
- ・ MIDI は社団法人音楽電子事業協会（AMEI）の登録商標です。
- ・ 本文書内のその他の会社名、製品名、規格名、登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。
- ・ 本文書内のすべての商標および登録商標は各所有者の著作権を侵害する意図ではなく、識別のみを目的として記載されております。
- ・ 他の者が著作権を保有する音声ファイル、CD、レコード、ビデオ、テープ、放送、ストリーミング、作品などから録音する場合、私的使用の場合を除き、権利者に無断での使用は法律で禁止されています。
- ・ 著作権法違反に対する処置に関して、株式会社ソニックウェアは一切の責任を負いません。

## 安全に関する重要な注意事項

安全にご使用頂き、事故を未然に防ぐために、以下の注意事項を必ずお読みください。

**<警告>この注意事項を守らないと使用者が死亡または重症を負う危険がある内容を示しています。**

- ・ AC アダプターでの動作  
コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしないでください。  
雷が発生しているとき、長期間使用しないときは AC アダプターをコンセントから抜いてください。
- ・ 電池での動作  
市販の 1.5V 単三乾電池を使用してください。

---

ご使用の電池の注意事項をよくお読みになってください。

電池の+ / -極を正しく挿入してください。

新しい電池と古い電池や種類の違う電池を同時に使用しないでください。

長期間使用しないときは、電池を取り外してください。

液漏れが発生したら、電池ボックスや端子に付いた液をよく拭き取ってください。

- ・ ケースを開け分解、改造を加えないでください。
- ・ 落としたり、衝撃や無理な力を加えたりしないでください。
- ・ 液体をかけたり入れたりしないでください。
- ・ 異物がケース内に入らないようにしてください。
- ・ 大音量で使用しないでください。聴力損失の原因となりうる大音量が発生する可能性があります。
- ・ 本体を輸送する場合は、購入時の個装箱と緩衝材をご使用ください。
- ・ 本体の電源が入っている間は、布やビニールなどで包まないでください。
- ・ 電源コードが踏まれたり、圧力がかかたりしないようにしてください。
- ・ 下記の環境ではご使用にならないでください。故障の原因になります。  
直射日光のあたる場所、40℃を超える環境、コンロなどの熱源の近く  
温度が極端に低いところや高いところ  
湿度が極端に高いところ、水のかかるところ  
振動の多いところ、砂やほこりの多いところ
- ・ 故障や異常が発生した場合は、すぐに電源を切りご使用をおやめください。

## <使用上の注意>

この注意事項を守らないと使用者が怪我や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

- ・ ケーブルを接続するときや本体の電源を操作するときは、接続している各機器の入力レベルを最小にするか電源を OFF にしてください。
- ・ お手入れ  
画面やケースが汚れたときは、柔らかいクロスで力を入れず乾拭きしてください。  
薬品（アルコール、ベンジン、シンナー、クレンザーなど含む）を使用しないでください。  
汚れが落ちない場合は、水で布を少しだけ湿らせよくしぼってから、拭いてください。  
製品が完全に乾くまで電源を入れないでください。

# はじめに

---

このたびは、SONICWARE LIVEN Lofi-6 をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

LIVEN Lofi-6 は、どんな音でも気持ちの良いヴィンテージ・サウンドに仕立てる究極のレトロ・6kHz サンプリング音源、4トラックステップシーケンサー、各トラック独立したエフェクトとマスターリバーブを搭載、16個のフィジカルノブによる直感的な操作と電池駆動&スピーカー内蔵であらゆる環境でライブパフォーマンスが可能なコンパクトグルーヴボックスです。

末永くご愛用ください。

## LIVEN Lofi-6 の主な特長

---

- ・どんな音でも気持ちの良いヴィンテージ・サウンドに仕立てる**究極のレトロ・6kHz サンプリング音源** - 16bit-6kHz モノラル、最大 8 秒のサンプリング
- ・真空管アンプのようなファットな低音と倍音生成によるメリハリあるサウンドを再現した **TUBE モード**
- ・Lofi-12 のほぼ**全ての機能**を搭載 - レイドバック、リサンプリング、チョッピング機能
- ・強力な **4トラック・ステップシーケンサー** - パラメーター・ロック&サウンド・ロック機能装備
- ・各トラック独立したエフェクト **12 種**とマスターエフェクト **9 種** - 倍音生成により高域を補う S.Maximizer 搭載

## あらゆる場所でジャム

電池駆動&スピーカー内蔵なので制作にもライブにも場所を選びません。

## あらゆるデバイスとの同期

MIDI もしくは SYNC 端子搭載デバイスとのクロック同期が可能。

オーディオ SYNC 機能を使えば、LINE 端子を使い Teenage Engineering 社の PO シリーズとも同期が可能。

また、入力した SYNC クロック信号から MIDI クロックを生成するなど、種類の異なる端子間でもクロック同期信号をブリッジすることが可能。

# 目次

各部の名称	8	(ARP のとき)	21
接続例	8	<b>サンプルの選択</b>	<b>22</b>
起動と終了	9	概要	22
電源の準備	9	サンプルを選択する	22
起動	9	<b>サンプルの音程の変更</b>	<b>23</b>
終了	9	トラックのピッチの変更	23
<b>基本操作</b>	<b>10</b>	トラックのキーの変更(トランスポーズ)	23
全体の音量を調整する	10	<b>サンプルの鳴り方の調整</b>	<b>24</b>
スピーカーを ON にする / OFF にする	10	サンプルのスタート位置を調整する	24
func キーの使い方	11	サンプルのアタックとリリースを調整する	24
shift キーの使い方	11	<b>フィルター</b>	<b>25</b>
shift キーのホールド	11	フィルターのタイプを変更する	25
<b>トラックとパターン</b>	<b>12</b>	フィルターのカットオフ周波数を変更する	26
トラックとは	12	フィルターのレゾナンスを調整する	26
パターンとは	12	フィルターエンベロープを調整する	27
パターンとバンク	12	<b>LFO</b>	<b>28</b>
<b>パターンの基本操作</b>	<b>13</b>	概要	28
パターンの選択	13	LFO の速さを調整する	28
パターン 17 以降の選択	13	ピッチ用の LFO の変化量を調整する	28
パターンの再生	13	フィルターカットオフ周波数用の	
テンポを変更する	14	LFO の変化量を調整する	28
パターンをリロードする	14	LFO の波形を設定する	29
<b>TUBE モード</b>	<b>15</b>	LFO のディレイを調整する	29
<b>パターンのチェイン再生</b>	<b>16</b>	<b>スweep</b>	<b>30</b>
パターンを複数選択して順番に再生する		概要	30
(チェイン再生)	16	ノートをスweepさせて演奏する	30
チェイン再生をループさせる	16	<b>エフェクト</b>	<b>31</b>
パターンごとに音量を調節する	16	エフェクトを調節する	31
<b>トラックの選択と基本調整</b>	<b>17</b>	<b>リバーブ</b>	<b>32</b>
トラックの選択	17	リバーブを調節する	32
トラックをミュートする	17	<b>クイック・サンプリング — 録音する —</b>	<b>33</b>
トラックの音量を調整する	17	LINE IN に機器を接続する	33
トラックのパンを調整する	17	録音の待機	33
<b>鍵盤での演奏とボイスモード</b>	<b>18</b>	録音の開始	33
演奏をする	18	<b>サンプリングの設定</b>	<b>34</b>
鍵盤をホールドする	18	オート録音の設定	34
ベロシティを変える	18	ノイズゲートの設定	34
オクターブ範囲を変える	19	<b>LINE IN の設定</b>	<b>35</b>
ボイスモードを変更する	19	ゲインを変更する	35
グライドを変更する		モノラル / ステレオを設定する	35
(MONO / LEGATO のとき)	20	<b>リサンプリング</b>	<b>36</b>
アルペジエーターのタイプを変更する		パターンをリサンプリングする	36

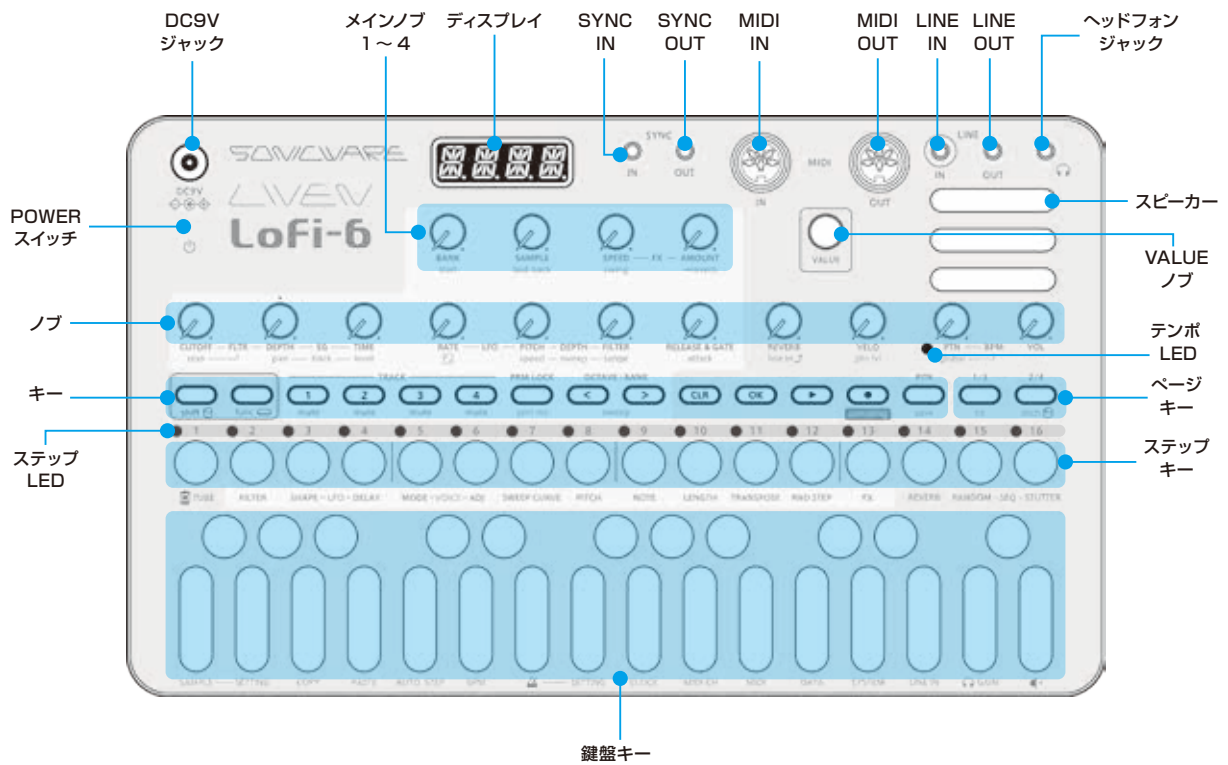
# 目次

パターンを再生しながら鍵盤の演奏も リアルタイムにサンプリングする	37	1つのサンプルをエクスポートする	49
<b>チョッピング</b>	<b>38</b>	1つのサンプルをインポートする	49
Downbeat Divider の仕組み	38	サンプルのバンクをエクスポートする	50
Downbeat Divider でサンプルを スライスする	39	サンプルのバンクをインポートする	50
<b>ドラムキットの作成</b>	<b>40</b>	<b>ステップシーケンサーの概要</b>	<b>51</b>
ドラムキットを作成する	40	概要	51
<b>SAMPLE &amp; EDIT モードへの入退場</b>	<b>41</b>	Lofi-6 のステップシーケンサーの特長	51
SAMPLE & EDIT モード (スロット・セレクト) に入る	41	<b>シーケンスの作成 - 準備 -</b>	<b>52</b>
スロットの選択	41	トラックの選択とサウンドの選定	52
SAMPLE & EDIT モードから出る (通常モードに戻る)	41	<b>シーケンスの作成 - 設定 -</b>	<b>53</b>
<b>SAMPLE &amp; EDIT モード (エディット)</b>		1ステップのノートの長さを設定する	53
<b>—録音の準備—</b>	<b>42</b>	シーケンスの長さを設定する	53
LINE IN に機器を接続する	42	<b>シーケンスの作成</b>	
録音スロットを選択する	42	<b>—ステップレコーディング—</b>	<b>54</b>
<b>SAMPLE &amp; EDIT モード (エディット)</b>		基本操作	54
<b>—録音する—</b>	<b>43</b>	ステップ 17 以降の選択	55
録音の待機	43	ステップのクリア	56
録音の開始	43	ステップのコピー	56
<b>SAMPLE &amp; EDIT モード (エディット)</b>		ステップレコーディング時に自動でステップを 移動する (オートステップモード)	56
<b>—編集する—</b>	<b>44</b>	タイ付きノート (長音) の入力を有効にする	57
パラメーターの調整	44	タイ付きノート (長音) を入力する	57
設定内容の保存	44	<b>シーケンスの作成</b>	
設定内容の破棄	44	<b>—リアルタイムレコーディング—</b>	<b>58</b>
パラメーターの微調整	44	基本操作	58
サスティンループを設定する	45	メトロノームをオン/オフする	59
サンプルの逆再生	46	メトロノームの音量を調節する	59
サンプルにフェードアウトを設定する	46	プリカウントを設定する	59
サンプルのアタック、リリース、 ベロシティの確認	46	<b>シーケンスの作成</b>	
<b>SAMPLE &amp; EDIT モード (エディット)</b>		<b>—ダイレクトレコーディング—</b>	<b>60</b>
<b>—リネーム、コピー—</b>	<b>47</b>	基本操作	60
サンプルをリネームする	47	<b>シーケンスの作成 - グルーヴの設定 -</b>	<b>62</b>
サンプルをコピーする	47	スイングを設定する	62
<b>SAMPLE &amp; EDIT モード (エディット)</b>		レイドバックを設定する	62
<b>—クリア—</b>	<b>48</b>	<b>パラメーターロック</b>	<b>63</b>
サンプルをクリアする	48	パラメーターロックを ON にする	63
<b>SAMPLE &amp; EDIT モード (エディット)</b>		パラメーターロック情報のクリア	63
<b>—サンプルのエクスポート/インポート—</b>	<b>49</b>	<b>パラメーターロックの基本操作</b>	<b>63</b>
		<b>パラメーターロック -ダイレクト入カ-</b>	<b>64</b>
		パラメーターロックを ON にする	64
		ノブの操作を記録する	64
		<b>パラメーターロック -リアルタイム入カ-</b>	<b>65</b>

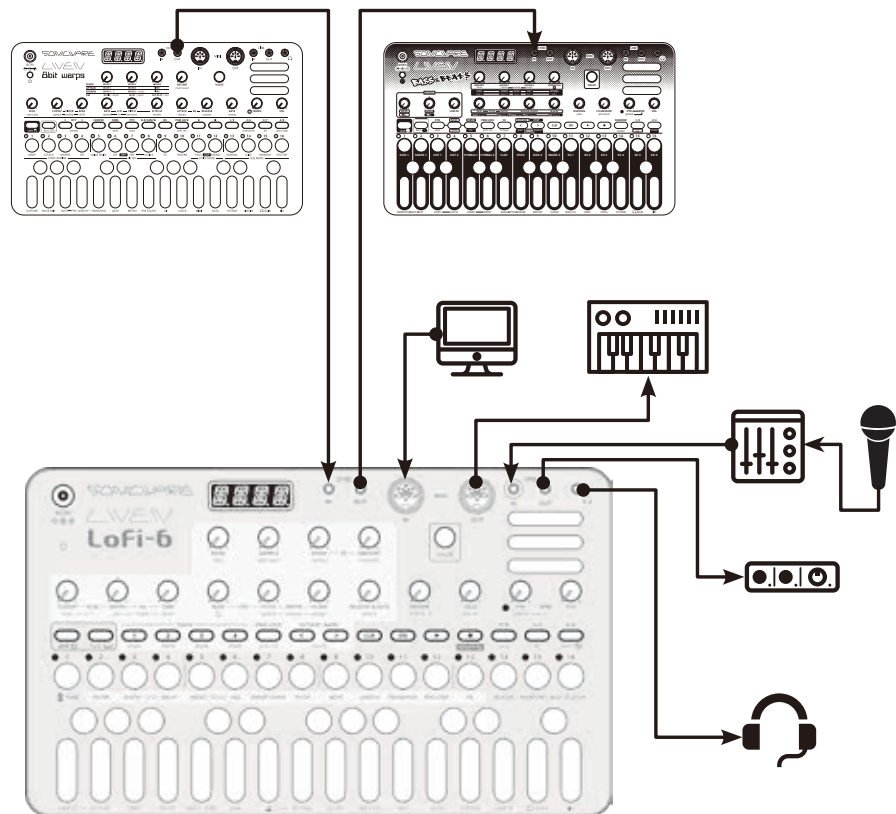
# 目次

リアルタイム入力をする (パラメーター REC)	65	選択したトラックにアクセスするための MIDI	
<b>パラメーターロック - サウンドロック入カ-</b>	<b>66</b>	チャンネルを設定する (オートチャンネル) …	81
サウンドロックを ……………	66	鍵盤キーを弾いたときに出力される MIDI	
ON にする ……………	66	チャンネルを設定する ……………	82
ノート入力と同時にパラメー ……………	66	コントロールチェンジの送信を ON/OFF する	82
タロック情報を記録する ……………	66	MIDI クロックの出力を ON/OFF する ……	82
<b>シーケンスエフェクト ……………</b>	<b>67</b>	MIDI OUT の設定をする ……………	83
ランダム ……………	67	MIDI コマンドの送受信の設定をする ……	83
ランダム設定 ……………	67	アクティブセンシングの送信の ON/OFF を	
ダイス ……………	67	設定する ……………	83
スタッター ……………	68	アクティブセンシングの受信の ON/OFF を	
<b>シーケンスの消去 ……………</b>	<b>69</b>	設定する ……………	84
ステップのクリア ……………	69	プログラムチェンジの送受信チャンネルの	
シーケンスのノート情報を全てクリアする …	69	設定をする ……………	84
トラックの音色だけ前回保存した状態に戻す	69	プログラムチェンジの送信を ON/OFF する	84
<b>トラックのコピー ……………</b>	<b>70</b>	プログラムチェンジの受信を ON/OFF する	85
トラックを拡張コピーする ……………	70	<b>ユーザーデータのエクスポート・インポート …</b>	<b>86</b>
トラックを別のトラックにコピーする ……	70	接続について - PC/Mac とエクスポート・	
<b>パターンの保存 ……………</b>	<b>71</b>	インポートする場合 ……………	86
パターンを保存する ……………	71	接続について - もう一台の Lofi-6 と	
パターンを初期化する ……………	71	エクスポート・インポートする場合 ……	86
<b>パターンのリネーム ……………</b>	<b>72</b>	1つのパターンをエクスポートする ……	87
パターンをリネームする ……………	72	1つのパターンをインポートする ……	87
<b>テンポについて ……………</b>	<b>73</b>	ユーザーデータを丸ごとバックアップする …	88
BPM モードを設定する ……………	73	ユーザーデータを復元する ……………	89
パターン BPM を設定する ……………	73	<b>システム設定 ……………</b>	<b>90</b>
グローバル BPM を設定する ……………	74	バッテリーの種類を設定する ……………	90
<b>外部機器とのクロック同期 - クロック設定-</b>	<b>75</b>	オートパワーオフの設定をする ……	90
概要 ……………	75	ヘッドフォンのゲインを設定する ……	91
クロックソースの設定をする ……………	76	マスターチューンを設定する ……………	91
Audio Sync 出力の設定をする ……	76	ノブの動きの設定をする ……………	92
SYNC IN の極性を設定をする ……	77	工場出荷状態に戻す (ファクトリーリセット)	93
SYNC OUT の極性を設定をする ……	77	システムのバージョンを確認する ……	93
<b>外部機器とのクロック同期 - 接続例-</b>	<b>78</b>	ファームウェアをアップデートする ……	94
Lofi-6 がクロックマスターの場合 ……	78	エラーコード一覧 ……………	95
外部機器がクロックマスターの場合 ……	79	<b>付録 ……………</b>	<b>96</b>
クロックマスターである外部機器の		図 1 サウンドアーキテクチャ ……	96
クロックを他の端子にブリッジする場合 ……	80	<b>仕様 ……………</b>	<b>97</b>
<b>MIDI ……………</b>	<b>81</b>		
MIDI 送受信チャンネルを設定する ……	81		
パターン用パラメーターの MIDI チャンネルを			
設定する ……………	81		

# 各部の名称



# 接続例



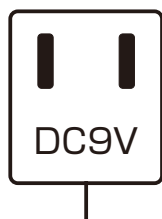
※接続するケーブル類は3m以下のものを使用してください。



# 起動と終了

## 電源の準備

AC アダプター (別売)



or

単三アルカリ乾電池 x 6



**AC アダプターは必ず指定のものを使用してください。指定以外のACアダプターを使用した場合、故障の原因となります。**

### AC アダプター仕様※

電圧：9V 出力

電流：1A 以上

端子：EIAJ3 規格

(内径 1.7mm、外径 4.75mm)

極性：センター+

※ KORG 社 Volca 用アダプター KA350 相当

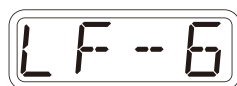
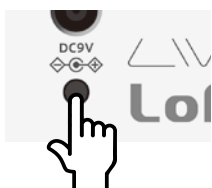
電池残量が少なくなるとディスプレイに BT.LO と表示されます。速やかに電池を交換してください。



ニッケル水素充電電池、リチウム電池を使う場合はバッテリーの設定を変更してください。(→ P.90)

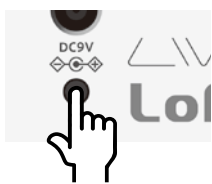
## 起動

- 1 ディスプレイに LF-6(Lofi-6) と表示されるまで POWER スイッチを長押し。



## 終了

- 1 ディスプレイが消灯するまで POWER スイッチを長押し。



**!** 作業中のデータは電源を切ると消えてしまいます。必要に応じて保存してください。

# 基本操作

---

基本的な操作について説明します。

## 全体の音量を調整する

スピーカー、ヘッドホン、LINE OUT の音量を調整します。



Volume
0 ~ 127
真ん中 (63 ~ 64) が 0dB で $-\infty$ ~ +6dB の範囲で変更できます

## スピーカーを ON にする / OFF にする

ヘッドホンを接続せずに内蔵スピーカーをミュートしたいとき (LINE OUT のみを使用中等) は、手動で OFF に切り替えてください。

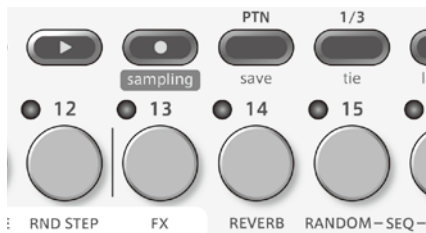


Speaker	
MUTE	スピーカー OFF
SPK	スピーカー ON

# 基本操作

## func キーの使い方

Lofi-6 のキーには2つの機能が割り当てられているものがあります。



上の例だと、PTN キーには save、1/3 キーには tie というサブ機能が割り当てられています。

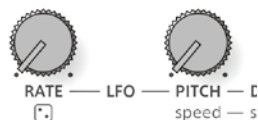
func キーを押しながら、これらのキーを押すことでサブ機能呼び出すことができます。

本マニュアルでは func キーを押しながらの操作は次のように記載します。



## shift キーの使い方

Lofi-6 のノブには**大文字**と**小文字**でそれぞれ別の名前がついています。



ノブを回すと大文字のパラメーターを操作できます。

shift キーを押しながらノブを回すと、小文字のパラメーターを操作できます。

本マニュアルでは shift キーを押しながらのノブ操作は次のように記載します。



## shift キーのホールド

func キーを押しながら shift キーを押すことで shift キーをホールドすることができます。(オレンジ点灯)

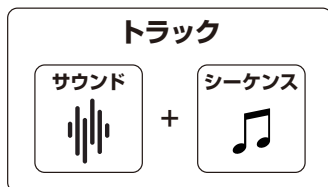
ホールド中は shift キーを押さなくても小文字のパラメーターを調整できます。

解除するには再度 shift キーを押します。

# トラックとパターン

## トラックとは

LIVEN Lofi-6 は、4トラックのシーケンサーを搭載したグループボックスです。  
**トラック**とは、**サウンド**の設定と**シーケンス**(演奏情報)を1つにまとめたものです。  
LIVEN Lofi-6 は、このトラックを4つ持っていて、各トラックごとに別々のサウンドでシーケンスを作成することができます。



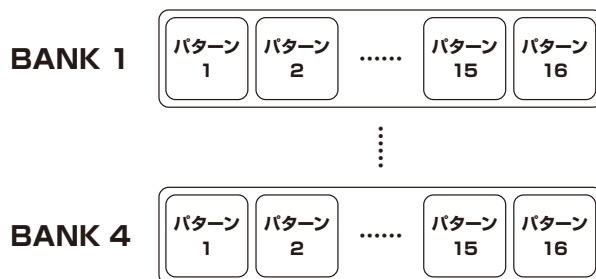
## パターンとは

**パターン**とは、上記4つのトラックを1つにまとめたものです。1つのパターンの長さは1～4小節ほどで、楽曲を構成する最小単位になります。



## パターンとバンク

16個のパターンが1つの**バンク**にまとめて格納されます。  
LIVEN Lofi-6 は4個のバンクがあり、合計64パターンを保存できます。



- ・BANK1にはプリセットされたパターンが格納されています。  
次のページを参考にしてPLAYしてみましよう。

# パターンの基本操作

## パターンの選択

1 **PTN** を押す。

2 **1** ~ **16** を押す。

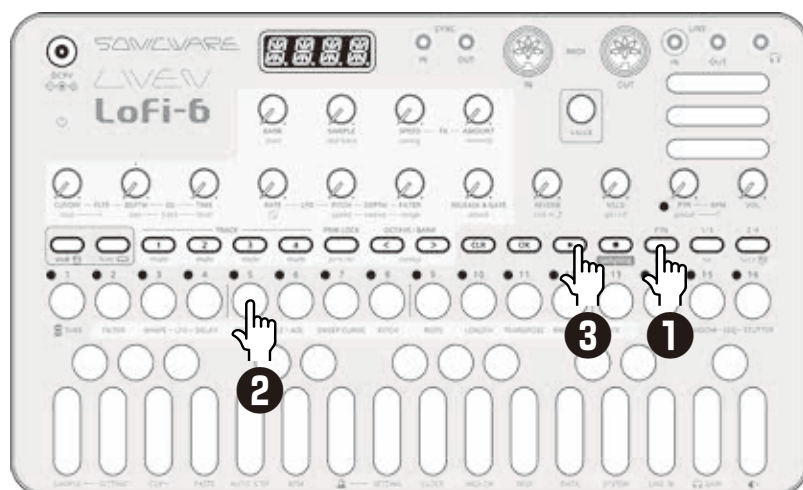
→パターンが選択されます。

(STEP1 =パターン 1 … STEP16 =パターン 16)

## パターンの再生

3 **▶** を押す。

再度押すと停止します。



## パターン 17 以降の選択

手順1の後に **OCTAVE | BANK** を押すことでバンクを変更してパターン 17 以降を選択できます。



- ・パターン再生中に別のパターンを選択した場合、すぐに切り替わらず予約されます。  
再生中のパターン終了後に選択したパターンに切り替わります。
- ・**PTN** を押した後、**VALUE** でもパターンを選択できます。

# パターンの基本操作

## テンポを変更する



### PTN - BPM

40 ~ 250

ディスプレイにテンポが表示されているときに、 VALUE を回すと 0.1 単位で値を変更できます。BPM を 80 より遅く、または 160 より速く設定する場合も、 VALUE を併用してください。

## パターンをリロードする

1 を押す。

2 を押す。  
ライブパフォーマンス中などで元のサウンドに戻したい時に便利です。



# TUBE モード

---







真空管アンプが生み出す高調波歪み（ハーモニック・ディストーション）が、心地よいサウンドを生み出すと言われていました。現在のデジタル・レコーディングの世界でも、ヴィンテージ機器やプラグインによってハーモニック・ディストーションを付加することは不可欠となっています。

Lofi-6 の TUBE モードは、真空管アンプのようなファットな低音、そしてこのハーモニック・ディストーション（倍音）の生成によりメリハリのあるサウンドを再現します。


- 1  +  を押す。  
「ON」にすると、パターンの出力に TUBE モードが適用されます。

# パターンのチェイン再生




## パターンを複数選択して順番に再生する (チェイン再生)

- 1  を 2 回押す (オレンジに点灯)。
- 2  ~  を押す。  
再生させたい順番でパターンを選択する。  
再度  ~  を押すと解除される。
- 3  を押す。  
選択された順番でパターンが再生される。



- ・もう一度  キーを押すとチェイン再生から抜けます。
- ・チェイン再生時はスタッターモード (→ P.68) が使えません。

## チェイン再生をループさせる

- 1  +  を押し、CN.LP を選択。■
- 2  で、LOOP を選択する。



## パターンごとに音量を調節する

- 1  +  を回す。


Pattern Level
0 ~ 127
-∞ ~ +6dB の範囲でパターンの音量が変化します



# トラックの選択と基本調整





Lofi-6 は、4 つのトラックを切り替えてオペレーションを行います。

## トラックの選択



- 1 選択したいトラックを  を押して選ぶ。  
選択した TRACK が赤く点灯し、ディスプレイにトラックナンバーが表示されます (選択していない TRACK は緑に点灯)。  
本体トップパネルのアイボリーで塗りつぶされている部分が、トラックごとにコントロールできるパラメーターです。



## トラックをミュートする

- 1 ミュートしたいトラックを  +  を押して選ぶ。  
ミュートした TRACK がオレンジに点灯します。  
  
 + オレンジに点灯したキーを押すとミュートが解除されます。

## トラックの音量を調整する

- 1  +  を回す。  
選択中のトラックの音量を 0 ~ 127 ( - ∞ ~ +6dB ) の範囲で調整できます。

## トラックのパンを調整する

- 1  +  を回す。  
選択中のトラックのパンを L63 ~ CNTR ~ R63 の範囲で調整できます。

# 鍵盤での演奏とボイスモード

---

## 演奏をする

- 1 鍵盤を弾く。



## 鍵盤をホールドする

- 1 **OK** + 鍵盤でホールドされる。



- ・もう一度同じ鍵盤を弾くと解除されます。
  - ・**CLR** + **OK** ですべての鍵盤のホールドが解除されます。
- 

## ベロシティを変える



鍵盤を弾いた時の強さを設定します。

















Velocity
0 ~ 127
値が大きいほど鍵盤を強く弾いたこと になります

# 鍵盤での演奏とボイスモード

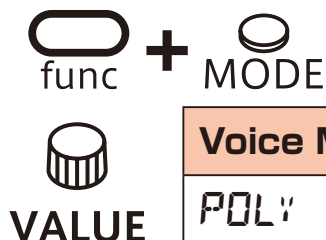
## オクターブ範囲を変える

- 1 、 を押す。  
1 オクターブ低く / 高くなります。

		+3 OCT
		+2 OCT
		+1 OCT
		
		-1 OCT
		-2 OCT
		-3 OCT

## ボイスモードを変更する

- 1  +  を押す。  
ボイスモードを選択する。



Voice Mode		
<i>POLY</i>	Polyphonic	最大 10 ボイス同時出力のモード
<i>MONO</i>	Mono	リトリガーありの 1 ボイス出力のモード
<i>LGT</i>	Legato	リトリガー無しの 1 ボイス出力のモード
<i>ARP</i>	Arpeggiator	押さえている鍵盤を 1 音ずつ発音するモード
<i>DRUM</i>	Drums	サンプルをスライスして鳴らすモード (複数スライスの発音可)
<i>CHOP</i>	Chop	サンプルをスライスして鳴らすモード (複数スライスの発音不可 - チョークモード)




# 鍵盤での演奏とボイスモード

---

## グライドを変更する (MONO / LEGATO のとき)

1  +  を押す。


2  VALUE で速度を設定する。

 + 				
 VALUE	<table border="1"><tr><td><b>Glide</b></td></tr><tr><td>0 ~ 127</td></tr><tr><td>0 ~ 10000ms の範囲で時間が変化します</td></tr></table>	<b>Glide</b>	0 ~ 127	0 ~ 10000ms の範囲で時間が変化します
<b>Glide</b>				
0 ~ 127				
0 ~ 10000ms の範囲で時間が変化します				

# 鍵盤での演奏とボイスモード













## アルペジエーターのタイプを変更する (ARP のとき)

1  +  を押す。

2  VALUE でアルペジエーターのタイプを選択する。

 + 

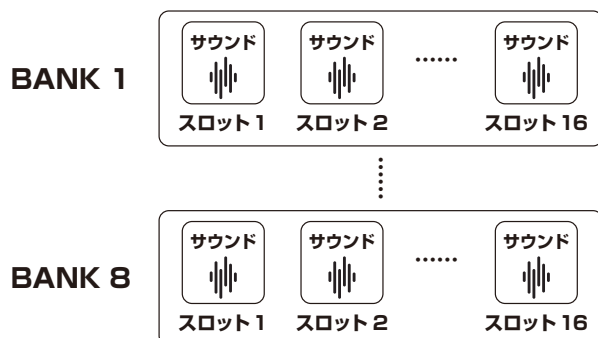
  
VALUE

Arpeggiator		
UP	UP	
DOWN	DOWN	
U.D	UP DOWN	
D.U	DOWN UP	
U.A.D	UP&DOWN	
D.A.U	DOWN&UP	
RANDOM	RANDOM	
UP+1	UP+1	
UP+2	UP+2	
DN-1	DOWN-1	
DN-2	DOWN-2	
P.O	PLAY ORDER	 鍵盤の押下順番 通りに発音

# サンプルの選択

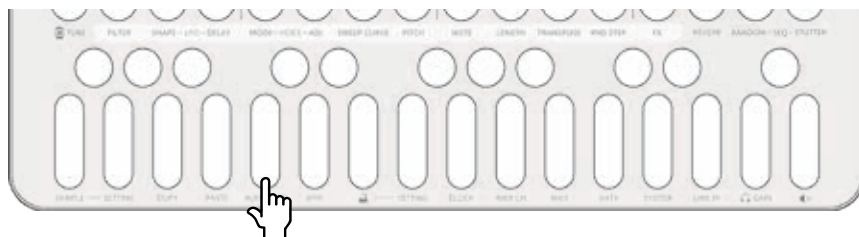
## 概要

Lofi-6 には、8 個のバンクごとに 16 個のロットがあり、合計 128 個のロットに録音したサンプルを保存することができます。



## サンプルを選択する

- 1 BANK と SAMPLE を回してサンプルを選択。  
鍵盤キーを弾いて音を確認できます。



この鍵盤キーを弾くと、サンプルのオリジナルの音程 / 長さの音が聴けます。



- SAMPLE の操作は VALUE でも行えます。

# サンプルの音程の変更

---

Lofi-6 は、鍵盤キーで半音単位に音程を変えることができますが、音程を変更する方法が他にもあります。



## トラックのピッチの変更

1  +  を押す。

キーを押すごとに 100 セント (半音) ずつ、-600 ~ +600 で変更されます。

 VALUE で 1 セント単位に調整できます。



- ・ 33 回転のレコードを 45 回転再生してサンプリングした音が、簡単にオリジナルのピッチに戻せるように、 +  で -520 も選択できるようになっています。
  - ・ SAMPLE & EDIT モードでサンプルのピッチが変更できます。(→ P.44)
- 

## トラックのキーの変更 (トランスポーズ)

1  +  を押す。

 VALUE で -12 ~ +12 (1 で半音変化) にキーを変更できます。



- ・ パターンの再生中にキーを変更した場合、再生位置がパターンの先頭に来たときに再生されるキーが変更されます。
-

# サンプルの鳴り方の調整

## サンプルのスタート位置を調整する

- 1  +  を回す。  
サンプルのスタート位置を 0 ~ 127 で調整できます。

## サンプルのアタックとリリースを調整する

エンベロープジェネレーターのアタックで音の鳴り始めのアタック感、RELEASEで音の終わりの余韻を調整します。

- 1  +  、  を回す。

 +   
shift + attack

### attack (EG)

0 ~ 127

0 ~ 4000ms の範囲でアタック時間が変化します

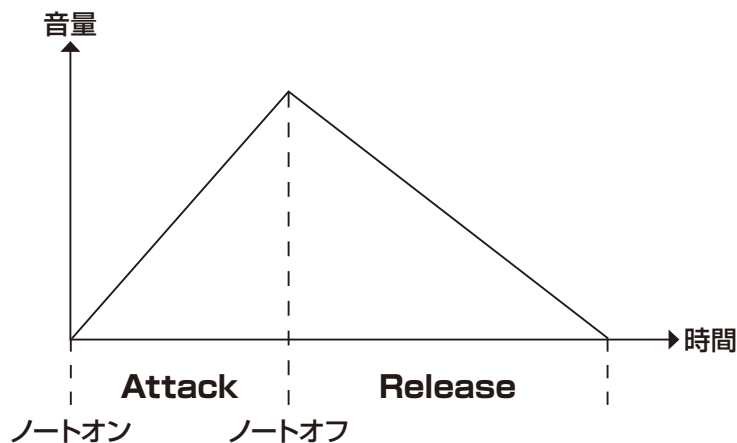


### RELEASE & GATE

### RELEASE & GATE (EG)

0 ~ 127

0 ~ 4000ms の範囲でリリース時間が変化します





# フィルター

## フィルターのタイプを変更する

1  +  を押し、タイプを選択する。



Filter Type		
LPF.∧	<i>LP∧</i>	高域をカットするフィルター + アタックとディケイが変化するエンベロープ
LPF. \_	<i>LP \_</i>	高域をカットするフィルター + ディケイが変化するエンベロープ
LPF./ \_	<i>LP./ \_</i>	高域をカットするフィルター + アタックが変化するエンベロープ
HPF.∧	<i>HP∧</i>	低域をカットするフィルター + アタックとディケイが変化するエンベロープ
HPF. \_	<i>HP \_</i>	低域をカットするフィルター + ディケイが変化するエンベロープ
HPF./ \_	<i>HP./ \_</i>	低域をカットするフィルター + アタックが変化するエンベロープ
BPF.∧	<i>BP∧</i>	特定の帯域のみを通過させるフィルター + アタックとディケイが変化するエンベロープ
BPF./	<i>BP./ </i>	特定の帯域のみを通過させるフィルター + ディケイが変化するエンベロープ
BPF. \	<i>BP \_</i>	特定の帯域のみを通過させるフィルター + アタックが変化するエンベロープ

# フィルター

---

## フィルターのカットオフ周波数を変更する



Cut Off
0 ~ 127
70 ~ 21600Hz の範囲でカットオフ周波数が変化します

## フィルターのレゾナンスを調整する



Resonance
0 ~ 127
0.1 ~ 10 の範囲でレゾナンスが変化します
BPF では 0.1 ~ 2.0 オクターブの範囲で帯域幅が変化します

# フィルター

## フィルターエンベロープを調整する

  
DEPTH – EG

### Filter EG Depth

-63 ~ 63

エンベロープの深さが -100 ~ 100%  
で変化します

  
TIME – EG

### Filter EG Time

0 ~ 127

13ms ~ 20s の範囲で時間が変化し  
ます

LPF.∧、HPF∧、BPF.∧ はアタックとディケイが TIME によって変化します。  
LPF.|∧、HPF.|∧、BPF.|∧ はディケイが TIME によって変化します。  
フィルターが同じタイプ (LPF.∧ と LPF.|∧ 等) の場合、DEPTH と TIME が  
共通になります。

# LFO

---

## 概要

Lofi-6 には、ピッチとフィルターのカットオフ周波数をモジュレートする **LFO** が各トラックに 1 基搭載されています。

## LFO の速さを調整する

  
RATE — LFO

Rate - LFO
0 ~ 127
0 ~ 30Hz の範囲で LFO の動作する周波数が変化します

## ピッチ用の LFO の変化量を調整する

  
LFO — PITCH

Pitch Depth - LFO
0 ~ 127
0 ~ 2 オクターブの範囲で変化します

## フィルターカットオフ周波数用の LFO の変化量を調整する

  
FILTER — DEPTH

Filter Cutoff Depth - LFO
0 ~ 127
値が大きいほど変化量が大きく、0 で全く変化しなくなります

# LFO

## LFO の波形を設定する

1  +  を押して、波形を選択する。

 +   
func + SHAPE

  
VALUE

LFO Wave			
SINE	サイン波	PL25	25%パルス波
SQWP	矩形波	PL75	75%パルス波
TRI	三角波	PL90	90%パルス波
SAW	のこぎり波	STP2	2 段階ステップ
RSAW	逆のこぎり波	STP3	3 段階ステップ
RAND	ランダム波	STP4	4 段階ステップ
LOG	ログ波	STP5	5 段階ステップ
RLOG	逆ログ波	STP6	6 段階ステップ
PL10	10%パルス波	STP7	7 段階ステップ

## LFO のディレイを調整する

1  +  を押して、ディレイ時間を選択する。

 +   
func + DELAY

LFO Delay
0 ~ 127 (0 ~ 8000ms)

# スイープ

## 概要

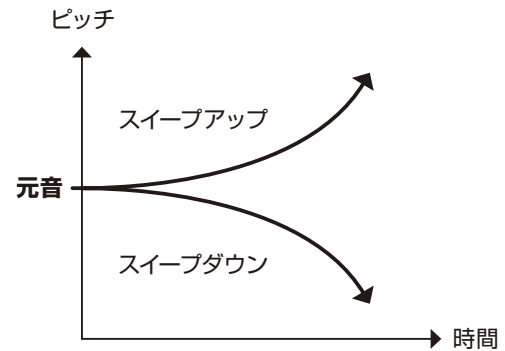
Lofi-6 には、一定の速度で周波数が増減していくスイープサウンド機能を搭載しています。

## ノートをスイープさせて演奏する

1 + または、 を押す。



Sweep	
	スイープダウン
	スイープアップ



・再度、 + または、 を押すと、スイープが解除されます。

+  range - sweep	+  speed - sweep	+  SWEEP CURVE	
Speed	Range		Curve
スイープの速度	スイープの量		カーブのタイプを変更
0 ~ 31 値が小さいほど速度が速くなります	1 ~ 11	1 ~ 11 半音	LINE   LINER 入力したノートからレンジ分直線的に変化します
	10CT	1 オクターブ	EXP   EXP 入力したノートからレンジ分最初ゆっくり変化し、後半は急に変化します
	20CT	2 オクターブ	LOG   LOG 入力したノートからレンジ分最初急に変化し、徐々にゆっくり変化します





# エフェクト

Lofi-6 は、トラックごとにエフェクトが設定できます。


## エフェクトを調節する

1  +  でエフェクトを選択。

2  SPEED - FX と  AMOUNT - FX でパラメーターを調整。

 +  func + FX		 SPEED - FX	 AMOUNT - FX
OFF	off	----	----
CHRS	Chorus	Rate	Amount
FLNG	Flanger	Speed	Amount
DLV	Delay	Time	Amount
CRSH	Crush	Sample rate	LPF Cut off
DIST	Distortion	Gain	Tone
LPF	Low pass filter	Cut off	Resonance
HPF	High pass filter	Cut off	Resonance
ISO	Isolator	Frequency	Balance
TILT	Tilt EQ	Frequency	Balance
TAML	Tremolo	Rate	Amount
COMP	Compressor	Ratio	Threshold
S.MAII	S.Maximizer	Frequency	Amount



- ・手順1で  VALUE でもエフェクトタイプを選択できます。
- ・S.Maximizer は、6kHz サンプリングでカットされた高域を、倍音生成により自然に補うことができます。

# リバーブ




Lofi-6 は、1 基のハイクオリティリバーブとマスターエフェクトを搭載しています。  
このリバーブ (マスターエフェクト) へのセンド量をトラックごとに調節できます。


## リバーブを調節する

1  +  でエフェクトを選択。

2  REVERB でパラメーターを調整。

  
VALUE

	 +  func + REVERB	 REVERB
OFF	OFF	----
HALL	HALL	Mix
ROOM	ROOM	Mix
ARNA	ARENA	Mix
PLAT	PLATE	Mix
TNNL	TUNNEL	Mix
INF	INFINITY	Mix
TAPE	Cassette Tape Simulator	Noise+Wow Flutter
VNYL	Vinyl Simulator	Noise+Wow Flutter
RMIX	REMIX	Beat repeat

3  +  →reverb でトラックごとのリバーブへのセンド量を調節。

 +  line in ↑ で LINE IN 入力のリバーブへのセンド量も調節できます。



# クイック・サンプリング — 録音する —



## LINE IN に機器を接続する

- 1 Lofi-6 の LINE IN に録音したい機器の出力を接続する。



・マイクやギターは直接つなぐことができません。ミキサー等の機器を通してライン信号に変えてください。




## 録音の開始

- 3 もう一度、 を押す。  
 が赤く点灯し、信号が入力されると自動的に録音が始まります。



ステップキーが録音経過を示します。

ステップ 16 まで点灯したら、録音が自動的に終了します。


- 4  を押し、 BANK と  SAMPLE でサンプルを保存するスロットを選択。

 VALUE でも選択できます。

保存する前に、選択したスロットのサンプルを鍵盤で弾いて試聴できます。




- 5 点滅している  を押して保存。

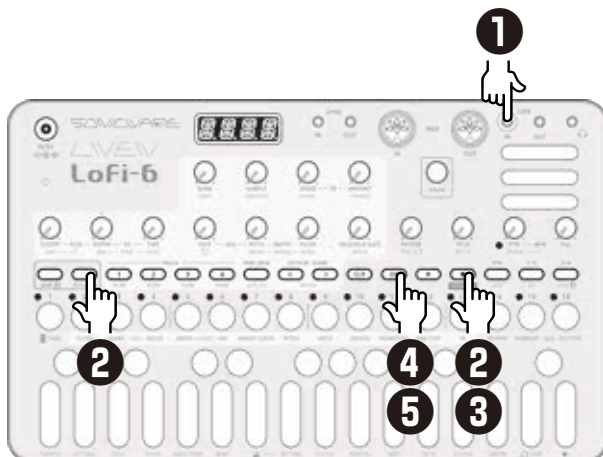


・操作を中断したい場合は  CLR を押してください。

・サンプルのリネームやエディットは SAMPLE & EDIT モードで行なってください。(→ P.47)

## 録音の待機

- 2  +  を押す。  
 が赤く点滅します。  
ステップ LED で録音レベルの確認ができます。



# サンプリングの設定

---

クイック・サンプリングでは、以下の設定が使用されます。

## オート録音の設定

- 1  +  を押し、  
A.R.LV を選択。



- 2  VALUE を回す。

OFF またはオート録音を開始する入力信号のレベルを -60 ~ -20dB に設定  
できます。

オート録音をオフにした場合、録音待機時に  を押すと録音が始まります。



---

・ LINE IN の入力ゲインは、 +  で調整できます。

・ 録音終了後に自動的にサンプルの音量はノーマライズされます。

---

## ノイズゲートの設定

- 1  +  を押し、NS.GT を選択。



- 2  VALUE で ON / OFF を設定。

# LINE IN の設定

## ゲインを変更する

1  +  を押し、GAIN を選択。

GAIN

2  VALUE を回し、ゲインを変更する。

  
VALUE

Gain
MUTE ~ 127

## モノラル / ステレオを設定する

1  +  を押し、MONO を選択。

MONO

2  VALUE を回し、ON / OFF を変更する。

  
VALUE

Mono	
ON	モノラル
OFF	ステレオ

# リサンプリング

## パターンをリサンプリングする

1 リサンプリングしたいパターンを選択。

2 **func** + **SETTING** を押して R.SRC を選択し、**VALUE** で PTN へ切替。



3 **func** + **sampling** を押してクイック・サンプリングに入り、**REC** を押して録音待機。

**REC** が赤く点灯します。

4 **PLAY** を押してパターンの再生を開始。

オート録音機能で、自動的に録音が始まります。

ディスプレイに REC と表示され、ステップキーが録音経過を示します。

ステップ 16 まで点灯したら、録音が自動的に終了します。

5 **OK** を押し、**BANK** と **SAMPLE** でサンプルを保存するスロットを選択。

**VALUE** でも選択できます。

保存する前に、選択したスロットのサンプルを鍵盤で弾いて試聴できます。

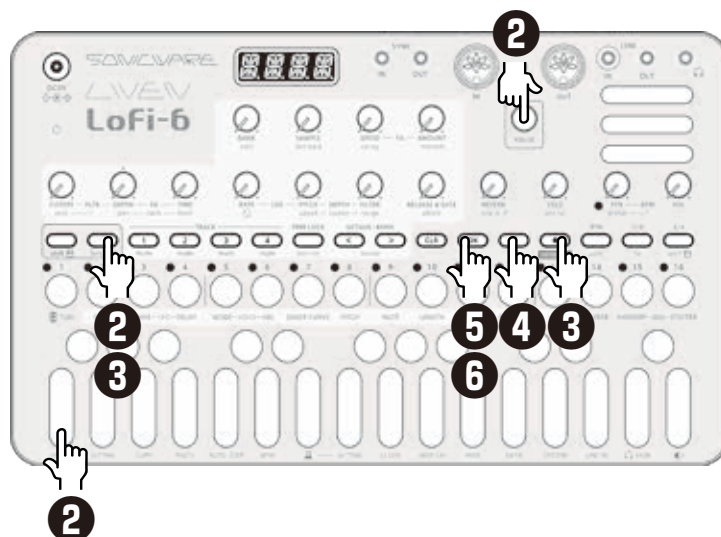


6 点滅している **OK** を押して保存。



・操作を中断したい場合は **CLR** を押してください。

・サンプルのリネームやエディットは SAMPLE & EDIT モードで行なってください。(→ P.47)



# リサンプリング

## パターンを再生しながら鍵盤の演奏もリアルタイムにサンプリングする




1 リサンプリングしたいパターンと演奏したいトラックを選択。


2  +  を押して R.SRC を選択し、 VALUE で PTN へ切替。




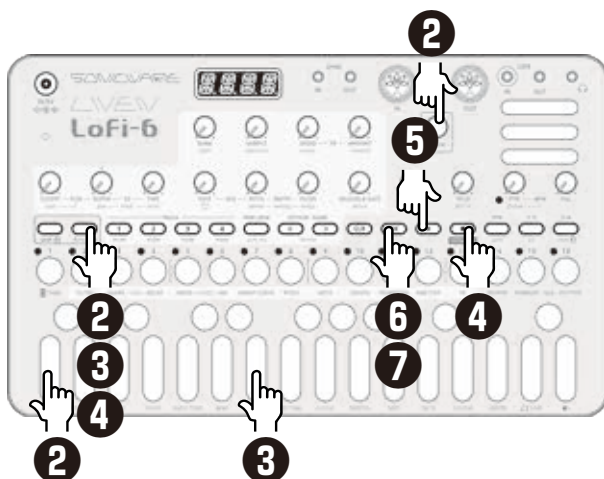
3 プリカウントとメトロノームを設定 (→ P.59)。



4  +  を押してクイック・サンプリングに入り、 を押して録音待機。




5  を押してパターンの再生を開始。

テンポを変えたい場合は、 CLR で一旦クイック・サンプリングから抜けてください。



設定したプリカウントの後、録音が始まります。

鍵盤を演奏してください(ノブの操作も録音できます)。

6  を押し、 BANK と  SAMPLE でサンプルを保存するスロットを選択。

 VALUE でも選択できます。

保存する前に、選択したスロットのサンプルを鍵盤で弾いて試聴できます。



7 点滅している  を押して保存。



・手順 1 で空のパターンを選択すれば、鍵盤の演奏だけをリサンプリングできます。録音したサンプルをトラックに設定し、上記手順を繰り返してゆくとリサンプリングをオーバーダブしてゆくことができます。

ノンクオンタイズでドラムパターンを入力したり、様々なエフェクトを重ねたい場合に便利です。

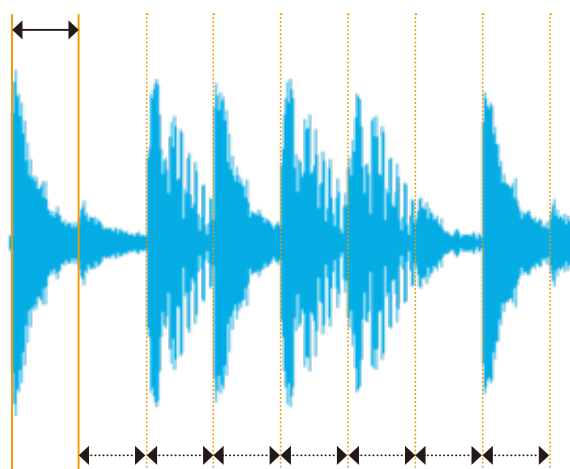
# チョッピング

Lofi-6 のチョッピングは、1 拍の長さを設定することで、サンプル全体を同じ長さで均等に分割する「**Downbeat Divider**」というオートスライス機能を使用します。

Downbeat Divider は、短いサンプルと 4 桁の LED 表示という制限の中、いかに簡単にチョップできるかを検討して開発されました。

## Downbeat Divider の仕組み

この 1 拍の長さを設定することで…



…サンプル全体を同じ長さで均等に分割します。

次の頁で、この Downbeat Divider を使ったスライスの手順を説明します。



- ・サンプルのスタート位置は、 +  または SAMPLE & EDIT モードの  で調整します。(→ P.44)

# チョッピング

## Downbeat Divider でサンプルをスライスする

1 空のパターンを選択。

2 **BANK** と **SAMPLE** でドラムビートを  
トを選択。

Loop が設定されていないサン  
プルを選んでください。

3 **func** + **MODE-VOICE** でDRUMを選択。

DRUM

4 **func** + **VOICE-ADJ** を選択。

Downbeat Divider の数値が表  
示されます。

99

5 一番左の鍵盤 (F) を弾きながら、  
**VALUE** で 1 拍分の長さを設定。

ここで設定した長さでサンプル全  
体が均等にスライスされます。

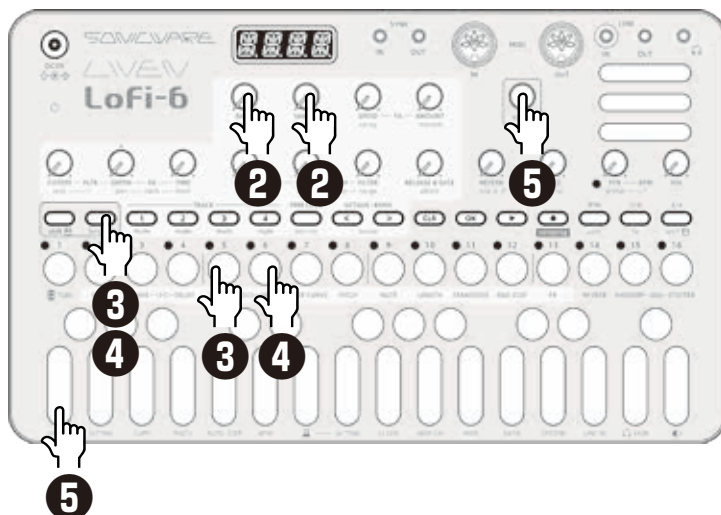
多くの場合、最初の 4 ~ 8 鍵盤  
が使用できるサウンドになるで  
しょう。

最初の 2 ~ 3 鍵盤を弾きながら、  
ちょうど良い長さを探してくださ  
い。

1 スライス の最長時間は 2 秒です。



・ **func** + **MODE-VOICE** で CHOP を選択  
すると、全てのスライスがチョー  
クモードで再生されます。複数  
のスライスを同時に鳴らした  
い場合は DRUM を選択してくだ  
さい。




# ドラムキットの作成

以上で説明した2つの機能を使うと、独自のドラムキットが簡単に作れます。

DRUM バンクの KIT サンプルを聴いていただくとお分かりいただけると思いますが、8 秒のサンプルで 16 インストゥルメントのドラムキットを作る場合、0.5 秒間隔でサウンドを録音するだけです。これはシーケンサーを使って簡単に行えます。

## ドラムキットを作成する

- 1 空のパターンを選択。
- 2 BPM でテンポを 60 に設定。  

- 3 **func** + **NOTE** を押し、**VALUE** で 1/8 を選択。
- 4 **PRM LOCK** を 2 回押してサウンドロックを ON (オレンジに点灯)。
- 5 **BANK** と **SAMPLE** でドラムキットに使用したいサウンドを選択。
- 6 **○** を押しながら鍵盤を弾いてノートとサウンドを記録。
- 7 手順 5 ~ 6 を繰り返し、**○** ~ **○** にノートとサウンドを記録。

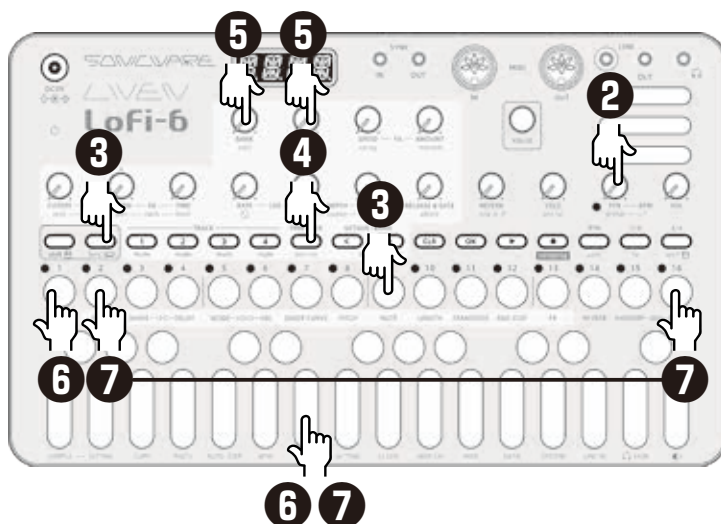
- 8 このパターンをリサンプリング。  
(→ P.37)

これでドラムキット用のサンプルが完成しました。

トラックのボイスモードを DRUM にして、このサンプルを選択してください。



- ・リサンプリングは、フィルターやエフェクトなどの音の加工も反映されます。あなただけのユニークなドラムキットを作成してみてください。





# SAMPLE & EDIT モードへの入退場

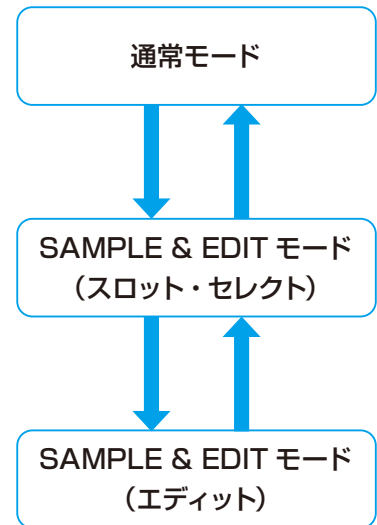
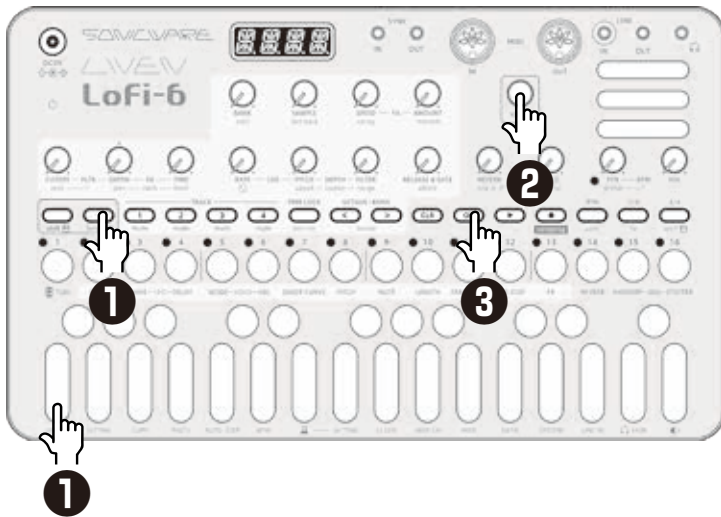
## SAMPLE & EDIT モード (スロット・セレクト) に入る

- 1 **func** + **SAMPLE** を押す。

### スロットの選択

- 2 **VALUE** を回しスロットを選択し **OK** を押す。  
→ SAMPLE & EDIT モード (エディット) に入場します。

- 3 **OK** を押す。



付属の SAMPLE & EDIT 用のオーバーレイシートを本体の上に乗せてください。  
**【注意】** オーバーレイシートは Lofi-12 と兼用になります。Lofi-6 では、**"24kHz"** は使用できません。



・スロット選択中、鍵盤キーでサンプルをプレビュー再生することができます。

## SAMPLE & EDIT モードから出る (通常モードに戻る)

- 1 **CANCEL** / **CLR** を押す。  
スロット・セレクトに戻ります。

- 2 もう一度 **EXIT** を押す。  
通常モードに戻ります。

# SAMPLE & EDIT モード (エディット) — 録音の準備 —

## LINE IN に機器を接続する

- 1 Lofi-6 の LINE IN に録音したい機器の出力を接続する。



- ・マイクやギターは直接つなぐことができません。ミキサー等の機器を通してライン信号に変えてください。
- ・Lofi-6 はモノラル録音を行います。初期設定では、LINE IN に入力されたステレオ信号はモノラルミックスされます。

## 録音スロットを選択する

- 2 SAMPLE&EDIT モードで、**CANCEL** を押す。**SELECT** が赤く点灯します。



- 3 **VALUE** を回し、サンプルを録音したいスロットを選ぶ。

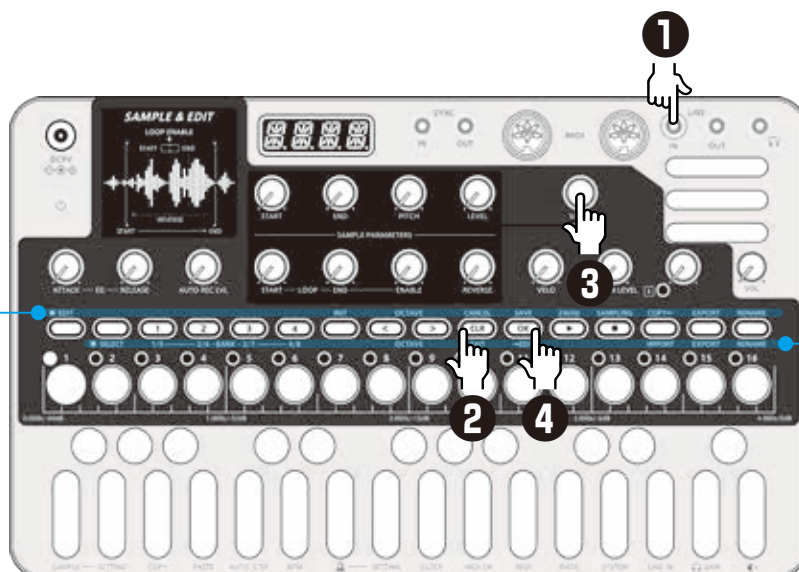


- ・スロット選択中、鍵盤キーでサンプルをプレビュー再生することができます。

- 4 **OK** を押し、エディットへ入る。**EDIT** が赤く点灯します。



エディット・メニュー



スロット・セレクト・メニュー

# SAMPLE & EDIT モード (エディット) — 録音する —

## 録音の待機

- 1 **SAMPLING** を押す。  
赤く点滅します。  
ステップ LED で録音レベルの確認ができます。

中止したい場合は **CANCEL** を押してください。



- ・LINE IN LEVEL で入力レベルを調節できます。

- 3 **OK** を押し、サンプルを保存するスロットを選択して、点滅している **OK** を押して保存。



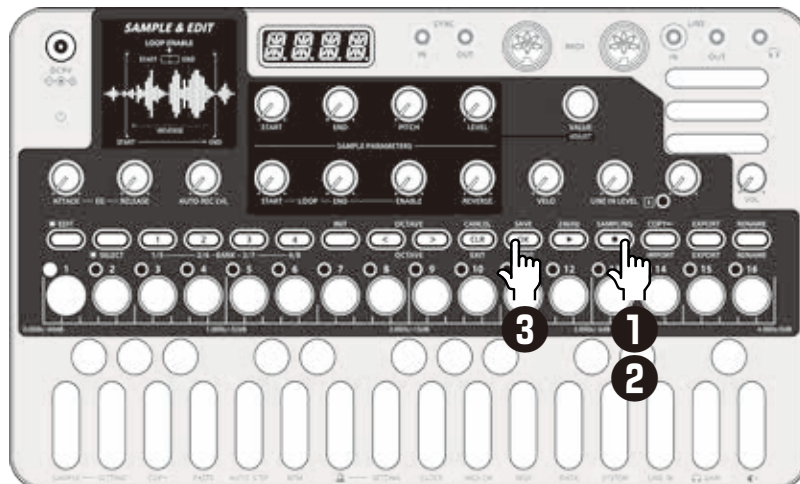
- ・AUTO REC LVL で、OFF またはオート録音を開始する入力信号のレベルを -60 ~ -20dB に設定できます。  
オート録音をオフにした場合、録音待機時に **SAMPLING** を押すと録音が始まります。
- ・録音終了後に自動的にサンプルの音量はノーマライズされます。

## 録音の開始

- 2 もう一度、**SAMPLING** を押す。  
赤く点灯し、信号が入力されると自動的に録音が始まります。



ステップキーが録音経過を示します。  
ステップ 16 まで点灯したら、録音が自動的に終了します。



# SAMPLE & EDIT モード (エディット) —編集する—

## パラメーターの調整

1 ノブを回す。

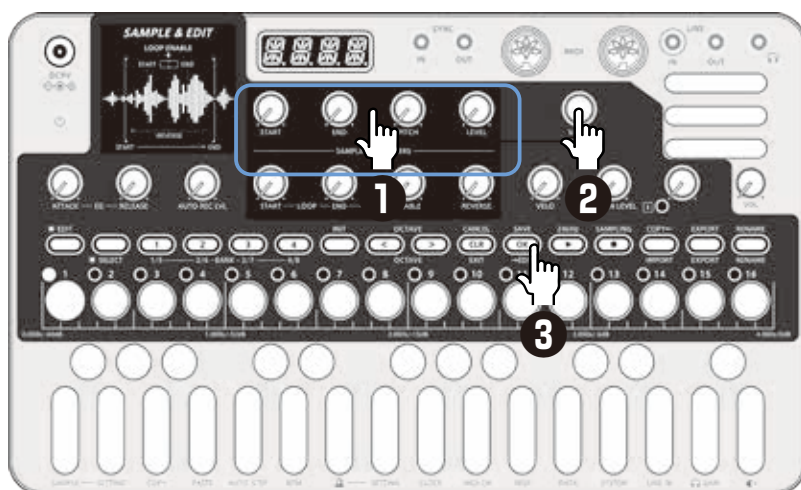
## パラメーターの微調整

2 パラメーターを表示中に  
VALUE を回す。

START	END	PITCH	LEVEL
Start	End	Pitch	Level
サンプルのスタート位置	サンプルのエンド位置	ピッチの調節	レベル
0 ~ 9359	640 ~ 9999	-999 ~ +999 ※	0 ~ 127
VALUE	VALUE	VALUE	

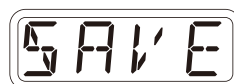
VALUE 微調整可能なパラメータ

※ 100 = 半音



## 設定内容の保存

3 **SAVE** を 2 回押す。  
保存され、スロット・セレクトに  
戻ります。



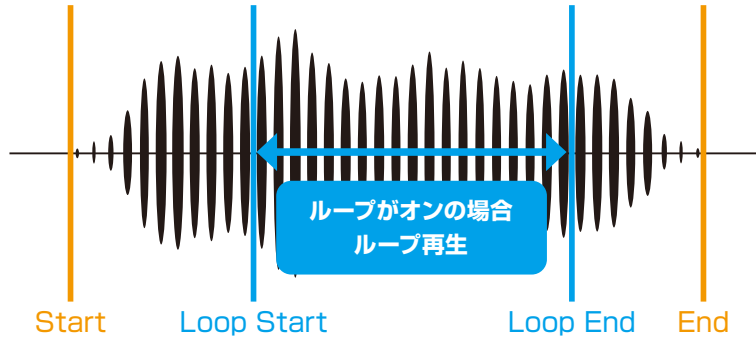
## 設定内容の破棄






**CANCEL** を押す。  
保存されずにスロット・セレクトに戻ります。

## サスティンループを設定する

Lofi-6 ではサンプルの任意の区間をループ再生するサスティンループ機能があります。

オルガンの音のように、鍵盤を押している間は音を伸ばしたい場合は、サスティンループを設定してください。



 START - LOOP	 END - LOOP	 ENABLE
<b>Loop Start</b>	<b>Loop End</b>	<b>Loop Enable</b>
サスティンループのスタート位置	サスティンループのエンド位置	サスティンループのオン/オフ
0 ~ 9776	223 ~ 9999	ON / OFF
サンプルを 9,999 分割したポジションを 100 単位で調整できます。	サンプルを 9,999 分割したポジションを 100 単位で調整できます。	サスティンループのオン/オフを設定します。
 VALUE	 VALUE	
ポジションを 1 単位で調整できます。	ポジションを 1 単位で調整できます。	

Loop Start と Loop End はクロスフェードで繋がれます。

自然なつなぎ目にするためには、音量や音質の変化がない区間を設定してください。波形によっては自然なサスティンループが設定できない場合があります。

## サンプルの逆再生



Reverse	
逆再生のオン/ オフ	
OFF	順方向に読み込み
ON	逆方向に読み込み

## サンプルにフェードアウトを設定する

サンプル全体の長さが、 ~ の点灯で示されています。

- 1 フェードアウトを開始させたい位置のステップを押す。  
例えば、サンプルの真ん中からフェードアウトを開始したい場合は を押してください。  
フェードが適用される長さが点滅で示されます。

フェードアウトを設定しない場合は、 を押してください。

- 2 を 2 回押す。  
サンプルにフェードアウトが適用されます。



・フェードアウトは、LOOP ENABLE がオフに設定されている場合のみ設定できます。

## サンプルのアタック、リリース、ベロシティの確認




ATTACK - EG	RELEASE - EG	VELO
ノートオン後のサンプルの立ち上がり時間	ノートオフ後にサンプルが消えるまでの時間	ノートオンの強弱値
0 ~ 127	0 ~ 127	0 ~ 127

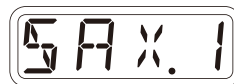
# SAMPLE & EDIT モード (エディット) —リネーム、コピー—

---

## サンプルをリネームする

1 エディットで  を押す。

2  /  でカーソルを左右に移動、  
 VALUE を回して文字を選択する。



3  を押す。  
ディスプレイに DONE と表示され  
確定します。



・スロット・セレクトで  を押すと同様にバンク名をリネームできます。


---


## サンプルをコピーする

1 スロットセレクトで空のスロットを選択。

2  を押してエディットに入る。

3  を押す。

4  VALUE を回してコピーしたいサンプルを選択。

5  を押す。  
ディスプレイに DONE が表示され、  
サンプルがコピーされます。



・各手順の最後に  を 2 回押して保存してください。

・各手順の途中で  を押すとキャンセルできます。

---



# SAMPLE & EDIT モード (エディット) ークリアー

---

## サンプルをクリアする

- 1 エディットで  を押す。  
サンプルが消去されます。



- ・各手順の最後に  を 2 回押して保存してください。
  - ・各手順の途中で  を押すとキャンセルできます。
-




# SAMPLE & EDIT モード (エディット) — サンプルのエキスポート / インポート —

録音したサンプルは、MIDI 経由で PC/Mac 等へエキスポート / インポートすることができます。接続については、P.86 をご覧ください。

## 1 つのサンプルをエキスポートする

1 スロット・セレクトで、エキスポートしたいサンプルを選択。

2  を押し、エディットへ入る。

3  を押す。



4 MIDI データの受信側を待機状態にする。

5  を押す。

サンプルデータの送信が開始されます。


ステップ LED が進捗状況を示し、

終了すると DONE と表示されます。



## 1 つのサンプルをインポートする

1 スロット・セレクトで、インポートしたいスロットを選択。

2  を押し、エディットへ入る。

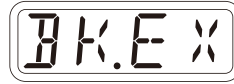
3 送信側でデータの送信を開始する。

4 データの受信完了後、 を 2 回押して保存する。

## サンプルのバンクをエキスポートする

1 スロット・セレクトで、    を押して  
エキスポートしたいバンクを選択。

2  を押す。



3 MIDI データの受信側を待機状態にする。

4  を押す。

サンプルデータの送信が開始されます。  
ステップ LED が進捗状況を示し、  
終了すると DONE と表示されます。



## サンプルのバンクをインポートする


1 スロット・セレクトで、    を押して  
インポートしたいバンクを選択。

2  を押す。



3 送信側でデータの送信を開始する。



4 BK.SV と表示されたら  を押す。



# ステップシーケンサーの概要

## 概要

Lofi-6 のステップシーケンサーは、演奏情報やパラメーター情報を格納した複数のステップ（シーケンス）を順番に再生していきます。



ステップはノート情報、パラメーター情報を格納しています。

シーケンスは複数のステップをまとめたものです。



シーケンサーはステップ1から順番に再生していきます。

## Lofi-6 のステップシーケンサーの特長

Lofi-6 に搭載されているシーケンサーには下記の特長があります。

### 3つの入力方式

#### ステップレコーディング

シーケンサーを停止させた状態で各ステップにノートを記録

#### リアルタイムレコーディング

鍵盤を演奏しながらノートをステップに記録

#### ダイレクトレコーディング

シーケンサー再生中でも直接ステップにノートを記録

### 自由度の高いシーケンス

#### 最大 64 ステップシーケンス

トラックごとに 1 ～ 64 ステップまで自由にステップ数を設定可能

#### さまざまなノート長に対応

1 ステップの長さを 1 小節から 32 分音符の長さまで自由に設定可能

# シーケンスの作成 — 準備 —

---

## トラックの選択とサウンドの選定

1  のいずれかを押し、シーケンスを作成したいトラックを選択。

2  を回して、使用するサウンドを決める。

 SAMPLE の操作は  VALUE でも行えます。



- ・LIVEN Lofi-6 の最大同時発音数は 10 ボイスです。
  - ・最大同時発音数を超えた場合は、優先度の低いトラックのノートからノートオフされます（優先度はトラック 4 > トラック 3 > トラック 2 > トラック 1 の順です。ただし、リリース中の音がある場合は、トラックの優先度に従いリリース中の音が優先してノートオフされます）。
  - ・LIVEN Lofi-6 のサウンドは、16 種類 x 8 バンクあり、最大 128 種類から選択できます。
-

# シーケンスの作成 ー設定ー

## 1 ステップのノートの長さを設定する

1  +  を押す。

2  VALUE で、ノートを選択。

  
VALUE

Note	
1/1	全音符
1/2	2分音符
1/4	付点4分音符
1/4	4分音符
1/8	付点8分音符
1/2T	2分3連符
1/8	8分音符
1/16	付点16分音符
1/4T	4分3連符
1/16	16分音符
1/32	32分音符

## シーケンスの長さを設定する

1  +  を押す。

2  VALUE で、長さを選択。



  
VALUE

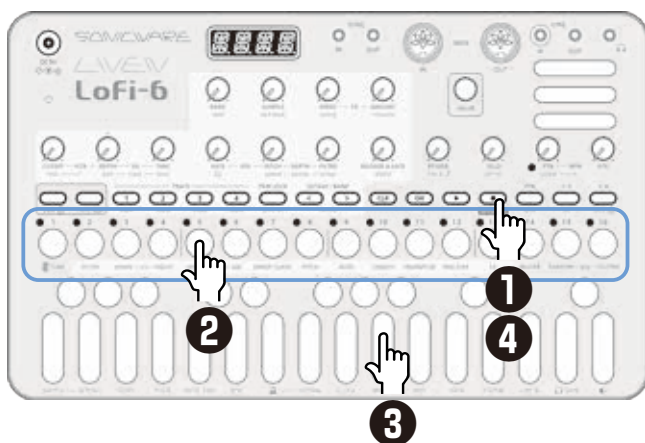
Length
1 ~ 64 (単位: ステップ)

# シーケンスの作成 —ステップレコーディング—

ステップレコーディングでは再生を停止した状態でじっくりシーケンスを作成することができます。

## 基本操作

- 1 停止中に  を押す (赤に点灯)。
- 2 ノートを入力したい位置の  $\circ_1 \sim \circ_{16}$  を押す。  
現在地のステップ LED が点滅し、ノートが入力されているステップの LED は点灯します。
- 3 鍵盤を押してステップにノートを入力。  
再度、同じ鍵盤を押すとステップからそのノートが削除されます。  
手順2～3を繰り返しシーケンスを作成します。
- 4  を押しステップレコーディングを終了する。



# シーケンスの作成

—ステップレコーディング—

## ステップ 17 以降の選択

手順1の後に  $\frac{1}{3}$ 、 $\frac{2}{4}$  を押すことでステップ 17 以降を選択できます。

ステップ 1 ~ 16 の選択 :  $\frac{1}{3}$  キーを 1 回押す。



ステップ 17 ~ 32 の選択 :  $\frac{2}{4}$  キーを 1 回押す。



ステップ 33 ~ 48 の選択 :  $\frac{1}{3}$  キーを 2 回押す。



ステップ 49 ~ 64 の選択 :  $\frac{2}{4}$  キーを 2 回押す。



- ・手順2で  $\frac{1}{3}$  ~  $\frac{2}{4}$  を押すと記録されているノートが発音し続けますが仕様です。
- ・ $\frac{1}{3}$  VALUE でもステップを移動できます。
- ・シーケンスの長さの設定によって、ページキーが有効 / 無効になります。

# シーケンスの作成

## —ステップレコーディング—

### ステップのクリア

- 1  +  $\circ^1 \sim \circ^{16}$  を押す。  
ステップレコーディング中は、そのステップのノート情報のみがクリアされます。

### ステップのコピー

- 1 ステップレコーディング中に  $\circ^1 \sim \circ^{16}$  でコピーしたいステップを選択。

- 2  +  $\circ^0$  COPY を押す。



- 3  $\circ^1 \sim \circ^{16}$  でペーストしたいステップを選択。

- 4  +  $\circ^0$  PASTE を押す。

コピー元ステップのノート情報や  
パラメータロック情報がコピー先にペーストされます。



・タイ情報はコピーできません。

### ステップレコーディング時に自動でステップを移動する (オートステップモード)

ステップレコーディング中、鍵盤を押下するたびに  
次のステップへ自動で移動します。

- 1  +  $\circ^0$  AUTO STEP を押し、ON / OFF を切り替える。



# シーケンスの作成 —ステップレコーディング—

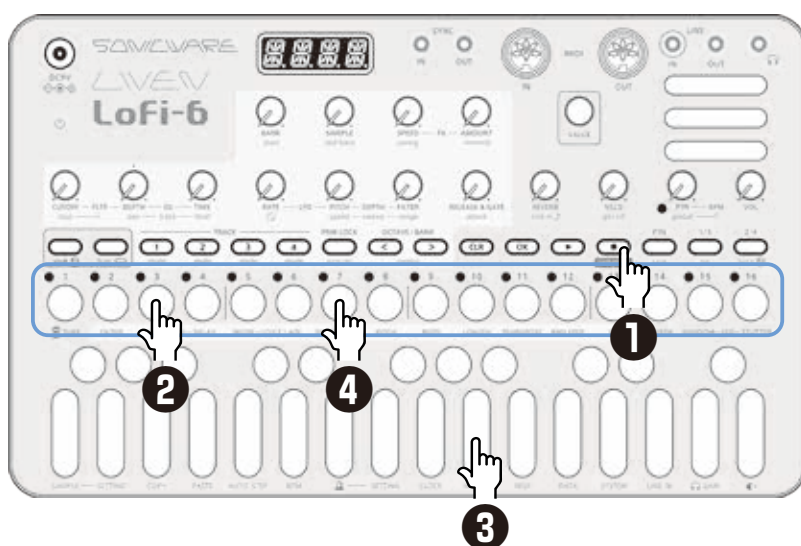
Lofi-6 ではタイ付きノート（長音）も入力することができます。

## タイ付きノート（長音）の入力を有効にする

- 1 **func + tie** を押す。  
キーが赤く点灯し、タイ付きノートの入力が有効になります。

## タイ付きノート（長音）を入力する

- 1 停止中に **REC** を押しステップレコーディングを開始する（赤に点灯）。
- 2 ノートを入力開始したい位置の **1** ~ **16** を押す。
- 3 鍵盤を押しつづける。
- 4 ノートを終了したい位置の **1** ~ **16** を押す。  
開始ステップから終了ステップまでのタイ付きノートが入力されます。



上の例では STEP3 から始まり STEP7 で終わるノート（ラ）が入力されます。





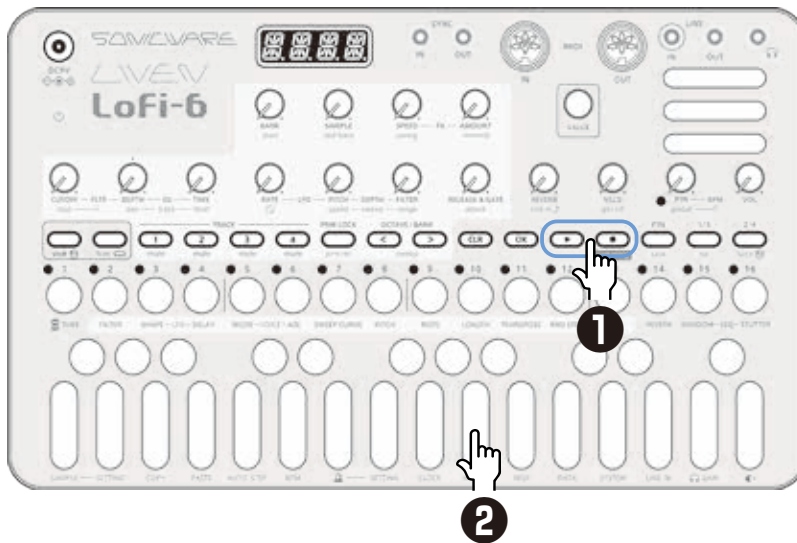
- ・手順 4 で **13**、**24** を押すことでページをまたぐタイ付きノートを入力することも可能です。



# シーケンスの作成 —リアルタイムレコーディング—

リアルタイムに鍵盤演奏しながらシーケンスを作成することができます。

## 基本操作

- 1  を押したあと  を押す。
- 2 パターンが再生されるので  
入力したい位置で鍵盤キーを弾く。



-  +  を押してタイ付きノートの入力を有効にすればステップをまたぐ長音も入力できます。



# シーケンスの作成 —リアルタイムレコーディング—

## メトロノームをオン/オフする


1  +  を押し、ON/オフを切替。




## メトロノームの音量を調節する

1  +  を押し、VOL を選択。



2  VALUE で、メトロノームの音量を調節。


	<b>Metronome</b>
VALUE	0 ~ 15

## プリカウントを設定する

1  +  を押し、PR.CT を選択。



2  VALUE で、プリカウントを変更。

	<b>Precount</b>
VALUE	OFF、1 ~ 8



- ・プリカウントが設定されている場合、プリカウント後にレコーディングや再生が始まります。

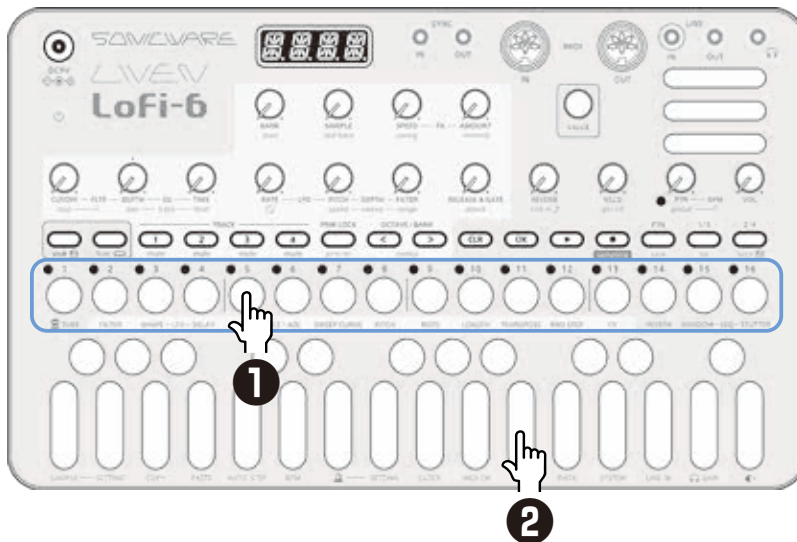
# シーケンスの作成 —ダイレクトレコーディング—

ダイレクトレコーディングでは、停止中、再生中どちらの状態でも直接ステップにノートを入力することができます。

特に再生中にノートを直接入力するやり方は、シーケンスをビルトアップしながらパフォーマンスすることに適しています。

## 基本操作

- 1 ノートを入力したい位置の  $\circ_1 \sim \circ_{16}$  を押しながら
  - 2 鍵盤を押してステップにノートを入力
- 手順1, 2は順序が異なってもノートを入力することができます。



# シーケンスの作成 —ダイレクトレコーディング—

---



- ・手順 1 の前に  $\frac{1}{3}$ 、 $\frac{2}{4}$  を押すことで STEP17 以降が配置されているページを選択することができます。

ステップ 1 ~ 16 の選択 : 1/3 キーを 1 回押す。



ステップ 17 ~ 32 の選択 : 2/4 キーを 1 回押す。




ステップ 33 ~ 48 の選択 : 1/3 キーを 2 回押す。



ステップ 49 ~ 64 の選択 : 2/4 キーを 2 回押す。





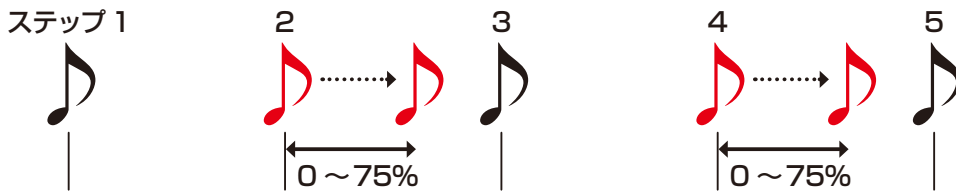
- ・再生中に  $\frac{1}{3}$ 、 $\frac{2}{4}$  を押すと表示中のページが固定されます。  
 を押すと解除されます。
-

# シーケンスの作成 - グルーヴの設定 -

Lofi-6 には、ハネたリズムを作るためのスイング機能、サンプルの発音タイミングを遅らせるレイドバック機能が搭載されています。



## スイングを設定する

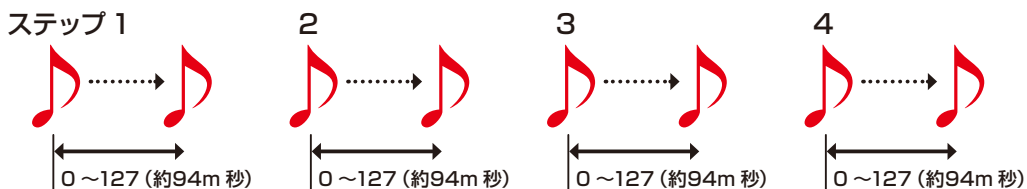
- 1  +  を回して、調整する。  
2 つめごとの (2、4、6... 番めの) ステップを後ろにズラします。



トラックごとに別々の設定が行えます。

## レイドバックを設定する

- 1  +  を回して、調整する。  
トラックで選択したサンプル全体の発音タイミングを後ろにズラします。



- ・パラメーターロック機能でステップごとの発音タイミングを変えることができます。  
サウンドロック機能で1つのトラックに複数のサンプルを設定してドラムトラックを作り、バスドラムやスネアドラムの鳴らすタイミングを自由に設定することができるのです。

# パラメーターロック

Lofi-6 では、ノブの操作をステップに記録させることができる**パラメーターロック**機能を搭載しています。

時間の経過とともにサウンドを変化させることができ、表現力豊かなパターンの作成に役立ちます。

パラメーターロック情報の入力方法は下記 3 つの方法があります。

## ダイレクト入力

⏪ ~ ⏩ を押しながらノブを回して直接入力する基本的な方法

## リアルタイム入力

再生中にリアルタイムにノブを操作しその動きを記録する方法




## サウンドロック入力

鍵盤を押してステップにノートを記録した時、現在鳴っているサウンド状態をパラメーターロック情報として同時にステップに記録する入力方法

# パラメーターロックの基本操作

## パラメーターロックを ON にする

- 1  を押す。  
 を押すごとに下記のように変化します。

	パラメーターロック OFF	自動でパラメーターは変化しません
	パラメーターロック ON	パラメーターロック情報に基づき自動でパラメーターが変化します
	サウンドロック ON	サウンドロック記録状態 (→ P.66)

## パラメーターロック情報のクリア

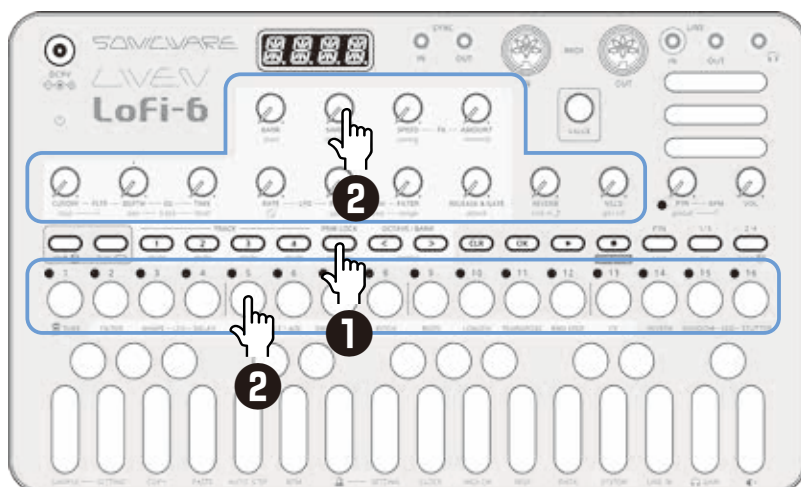
- 1  +  を押す。  
パラメーターロック情報がクリアされます。

# パラメーターロック –ダイレクト入カー

## パラメーターロックを ON にする ノブの操作を記録する

1 **PRM LOCK** を押す (緑に点灯)。

2 **1** ~ **16** を押しながら、**ノブ**を操作。








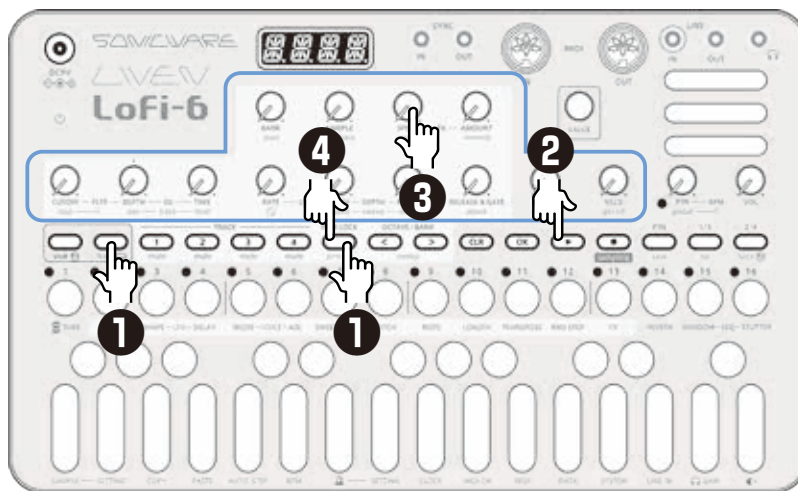
- ・手順 2 の前に **1/3** ~ **2/4** を押すことで STEP17 以降が配置されているページを選択することができます。
- ・複数のステップキーを押しながらノブを操作することで、同時にパラメーターロックを入力することも可能です (BANK と SAMPLE は除く)。
- ・REVERB, line in ↑, ptn level, PTN BPM, global BPM, VOL はパラメーターロック対象外です。



# パラメーターロック –リアルタイム入カー

## リアルタイム入力をする (パラメーター REC)

- 1  +  を押す (赤に点灯)。
- 2  を押しパターンを再生。
- 3  ノブを操作して記録。
- 4  を押して緑に点灯させてリアルタイム入力終了。



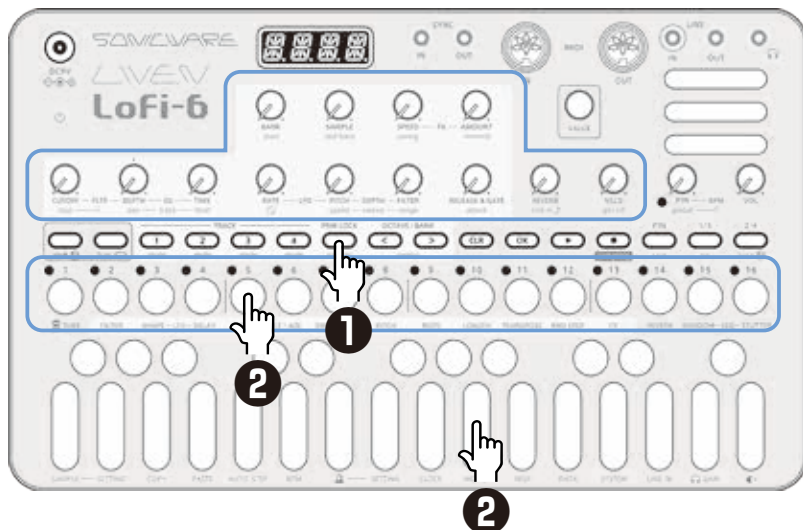
# パラメーターロック – サウンドロック入カー

## サウンドロックを ONにする

- 1 **PRM LOCK** を2回押す  
(オレンジに点灯)。

## ノート入力と同時にパラメー タロック情報を記録する

- 2 **1** ~ **16** を押しながら、鍵盤を弾く。



- ・手順2ではノート入力にダイレクトレコーディングを使用していますが、ステップレコーディング、リアルタイムレコーディングでも同様にサウンドロック機能を使うことができます。
- ・サウンドロック機能で記録されるパラメーターロック情報は BANK、SAMPLE、start、RELEASE & GATE、attack です。

# シーケンスエフェクト

Lofi-6 は、ノートの発音確率を設定できる**ダイス**機能、フレーズのランダム化が可能な**ランダム**機能、押しているステップをリピート再生する**スタッター**機能を搭載しています。

## ランダム

1  +  を押す。

ON にするとランダム化されたシーケンスが再生されます。

ランダムを OFF にするには再度  +  を押してください。

## ランダム設定

ランダム再生時にランダム化する最小単位（1 ステップごと、4 ステップごと等）を設定できます。

1  +  を押し、 VALUE で調整する。

  
VALUE

### Randomize Step

OFF, 1, 2, 4, 8, 16 (単位:ステップ)

OFF にするとランダム再生が ON になってもランダム化されません

ランダムのオン / オフ設定はパターンに保存され、ランダム設定はトラックごとに保存できます。

## ダイス

1  +  を回す。

トラックのノートの発音確率を 25 ~ 100% の範囲で調整できます。





・パラメーターロック機能でステップごとの発音確率を設定することもできます。

# シーケンスエフェクト


---

## スタッター

1  +  を押す。  
ON にするとスタッターモードになります。

2  ~  を押す。  
押下中のステップだけが再生されます。



スタッターを OFF するには再度  +  を押す。

# シーケンスの消去

## ステップのクリア

- 1 **CLR** + 1 ~ 16 を押す。  
そのステップのノート情報やパラメータロック情報がクリアされます。



- ・ **CLR** を押している間、パラメータロック情報があるステップは赤で点滅します。
- ・ ノートのレコーディング中 (REC キーが赤) は、ノート情報のみ消去されます。
- ・ パラメーターレコーディング中 ( **PRMLCK** が赤 ) はパラメーターロック情報のみが消去されます。
- ・ 通常時、または **TRK** と **PRM REC** キーが赤に点灯しているときは、ノートとパラメーター情報の両方が消去されます。

## シーケンスのノート情報を全てクリアする

- 1 **CLR** + **1** **2** **3** **4** のクリアしたいシーケンスの入ったトラックを押す。

- 2 **VALUE** で NOTE を選択し **OK** を押す。  
シーケンスの全ステップに入っている全ノートがクリアされます。

## トラックの音色だけ前回保存した状態に戻す

- 1 **CLR** + **1** **2** **3** **4** の音色を戻したいトラックを押す。









- 2 **VALUE** を回して、SND を選択し、**OK** を押す。

# トラックのコピー















---

## トラックを拡張コピーする

作成したシーケンスを複製して2倍の長さにすることができます。

- 1 拡張コピーしたいシーケンスのトラックを     を押して選択。
- 2  +  を押す。
- 3  を押しながら  VALUE を回して、2倍（または4倍）に複製する。

## トラックを別のトラックにコピーする

- 1 コピーしたいパターンのトラックを     を押して選択。
- 2  +  を押す。 
- 3 ペーストしたいパターンのトラックを     を押して選択。
- 4  +  を押す。 

# パターンの保存

---

各トラックで作成したシーケンスは、パターンとして保存します。

## パターンを保存する


1  +  を押す。



2  を押す。  
DONE と表示され、保存されます。



保存先を変えたい場合、または**パターンをコピー**したい場合は、

1  +  を押す。

2    で保存先バンクを選択。

3  ~  で保存先パターンを選択。  
DONE と表示され、保存されます。



---



・手順 2 で  VALUE でも保存先の選択ができます (  で実行)

・各手順の途中で  を押すとキャンセルできます。

---

## パターンを初期化する

1 初期化したいパターンを選択。  
(→ P.13)

2  +  を押す。  
CLR と表示され、パターン設定、  
ノートとパラメーターロック情報が  
全て消去されます。





3 パターンを保存。




# パターンのリネーム

## パターンをリネームする

1  +  を数回押し  
P.N.ED(Pattern Name EDit) を選択。





2  VALUE でリネームしたいパターンを  
選択し  を押す。

3  /  でカーソルを左右に移動、  
 VALUE を回して文字を選択する。



カーソル位置は点滅

4  を押す。  
リネームが保存され、パターン選択に戻ります。  
続けてリネームするには手順2から繰り返してください。  
リネームを終えるには  を押してください。





# テンポについて

Lofi-6 には 2 つの BPM モードがあります。

## パターン BPM モード

パターンチェンジした際、パターンに保存されているテンポ情報を使って BPM を再設定します。

## グローバル BPM モード

パターンチェンジした際も引き続き現在のグローバル BPM 値に従って動作します。

一定のテンポでジャムセッションを進行したい場合はグローバル BPM モードを、パターンごとにテンポを変えたい場合はパターン BPM モードを選択してください。

## BPM モードを設定する

1  +  を押す。

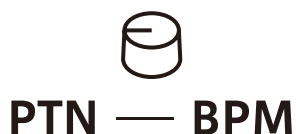
2  VALUE で BPM モードを選択。





BPM	
BPM モード	
PTN	パターン BPM モード
GLBL	グローバル BPM モード

## パターン BPM を設定する

1  PTN — BPM を回す。





パターン BPM
40 ~ 250
ディスプレイにテンポが表示されているときに、  VALUE を回すと 0.1 単位で値を変更できます。BPM を 80 より遅く、または 160 より速く設定する場合も、  VALUE を併用してください。

# テンポについて

---

## グローバル BPM を設定する

1  +  global - BPM を回す。

 +  global - BPM

グローバル BPM
40 ~ 250
ディスプレイにテンポが表示されているときに、  VALUE を回すと 0.1 単位で値を変更できます。 BPM を 80 より遅く、または 160 より速く設定する場合も、  VALUE を併用してください。

# 外部機器とのクロック同期 ークロック設定ー

---

## 概要

Lofi-6 には下記の同期方法が用意されています。

## SYNC

SYNC IN/OUT 端子を使って SYNC 対応機器（Korg 社 Volca シリーズなど）と同期します。

## MIDI

MIDI IN/OUT 端子を使って MIDI 対応機器と同期します。

## AudioSync

LINE IN/Headphone OUT 端子を使って AudioSync 対応機器（Teenage Engineering 社 Pocket Operator シリーズなど）と同期します。

Audio Sync で同期する場合、やり取りするオーディオはモノラルになります。

また、Lofi-6 はクロックマスターになることも、外部機器からのクロックを受けることもできます。

# 外部機器とのクロック同期 – クロック設定 –

## クロックソースの設定をする

INT (INTernal) に設定した場合、Lofi-6 はクロックマスターになります。  
INT 以外に設定した場合、外部機器がクロックマスターになります。

1  +  を押し、SRC を選択。



2  VALUE を回し、クロックソースを設定する。

  
VALUE

Clock Source	
INT	LIVEN Lofi-6 内部のクロックを使用します
MIDI	MIDI IN のクロックを使用します
SYNC	SYNC IN のクロックを使用します
LINE IN	LINE IN のクロックを使用します

## Audio Sync 出力の設定をする

Audio Sync 出力にはヘッドホン端子を使用します。  
そのため、Audio Sync 出力をする場合、下記の設定を行ってください。

1  +  を押し、A.OUT を選択。



2  VALUE を回し、ON を選択。



- ・ヘッドフォンの L 側から同期信号が、R 側からモノラルミックスされたオーディオが出力されます

# 外部機器とのクロック同期 —クロック設定—

## SYNC IN の極性を設定をする

1  +  を押し、S.I.P.O を選択。

S.I.P.O

2  VALUE を回し、極性を設定する。

  
VALUE

Polarity - Sync In	
FALL	同期信号の立ち下がりで同期します
RISE	同期信号の立ち上がりで同期します

## SYNC OUT の極性を設定をする

1  +  を押し、S.O.P.O を選択。

S.O.P.O

2  VALUE を回し、極性を設定する。

  
VALUE

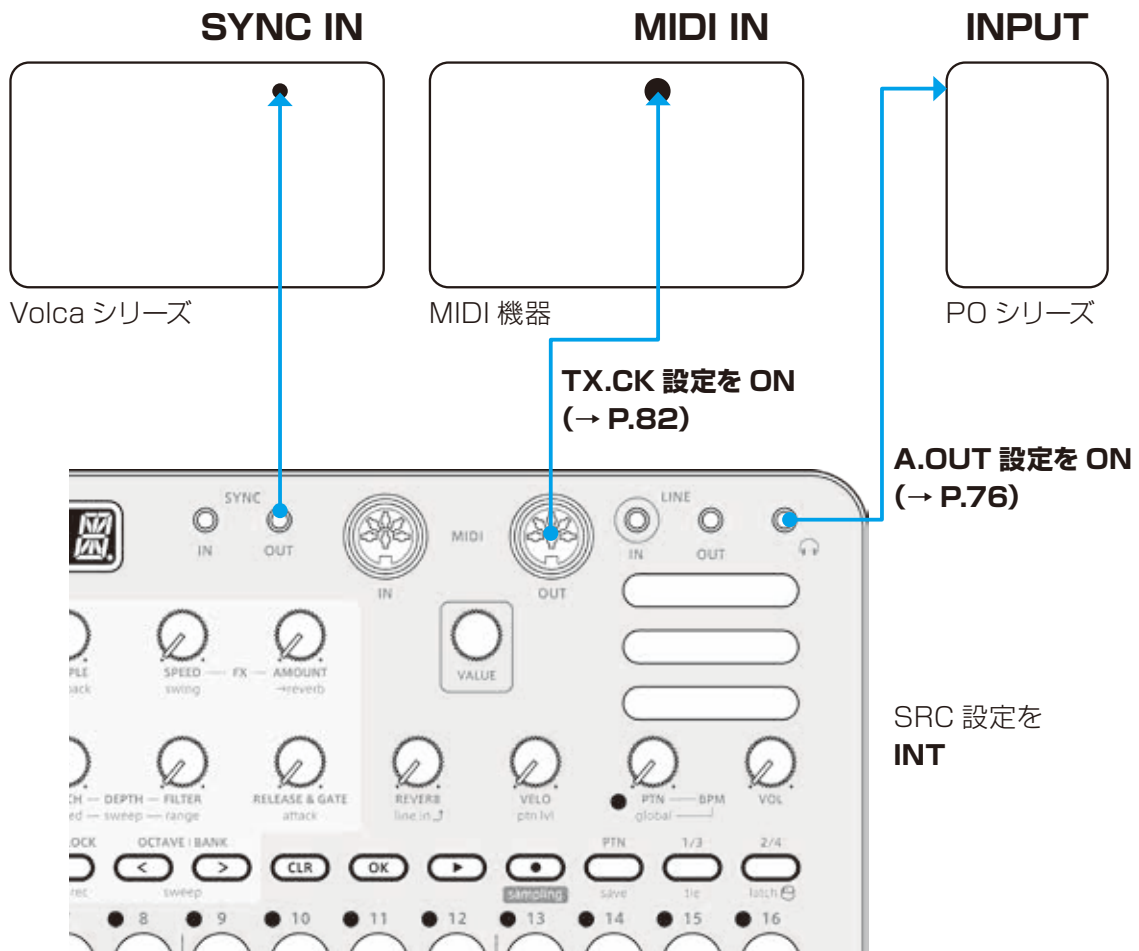
Polarity - Sync Out	
FALL	同期信号の立ち下がりで同期します
RISE	同期信号の立ち上がりで同期します



・MIDI クロックの設定については P.82 をご覧ください。

# 外部機器とのクロック同期 — 接続例 —

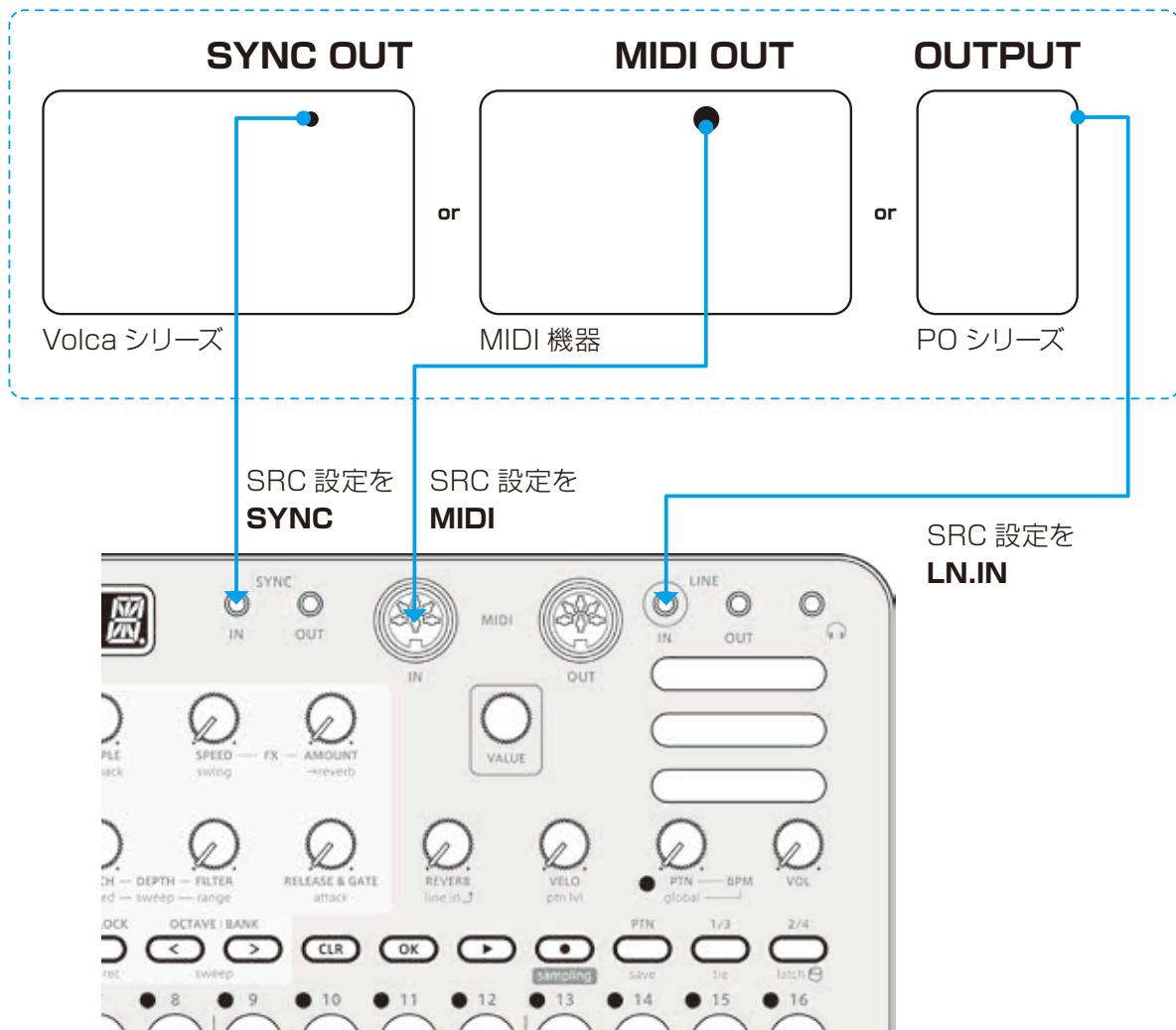
## Lofi-6 がクロックマスターの場合



# 外部機器とのクロック同期 — 接続例 —

## 外部機器がクロックマスターの場合

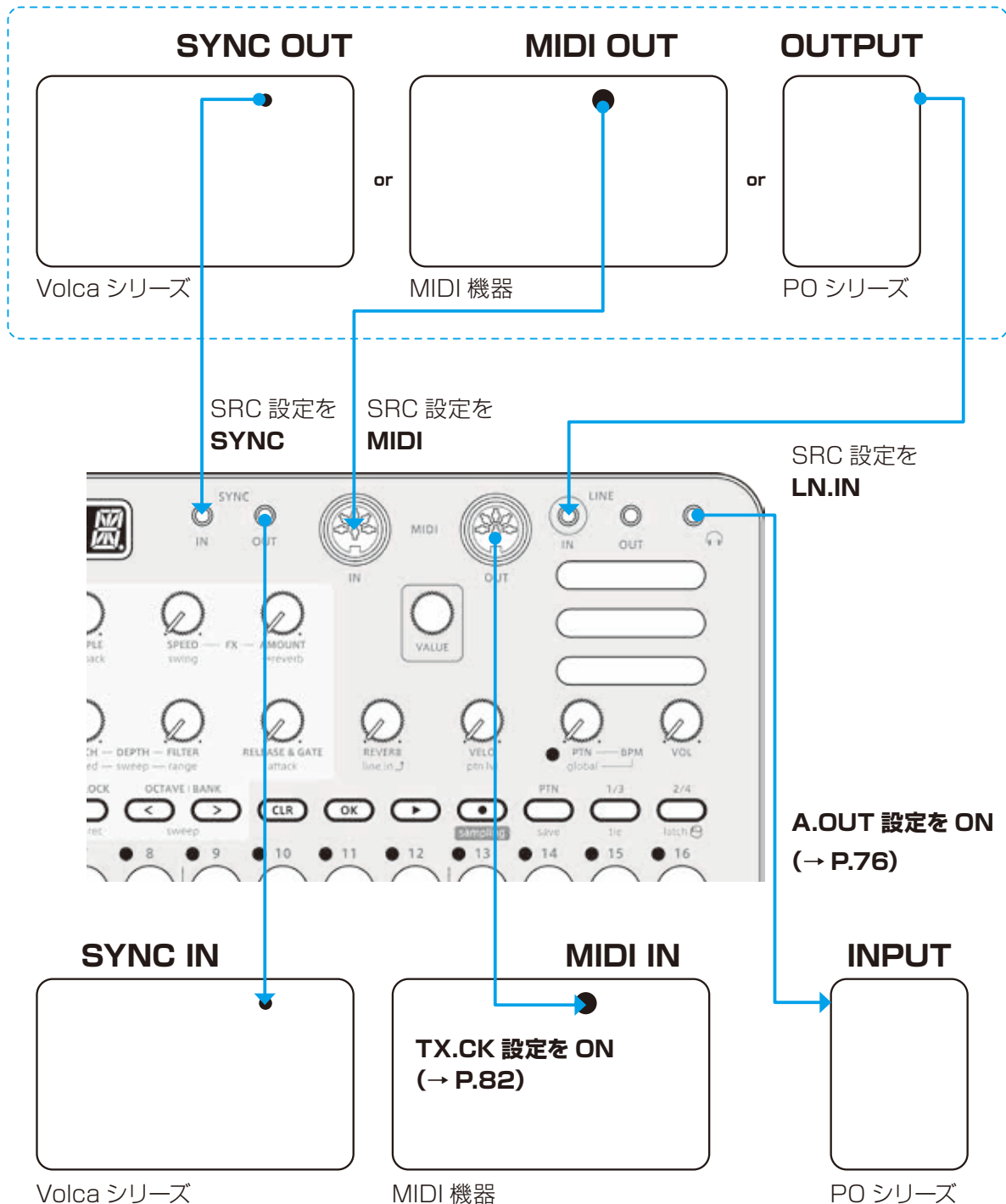
クロックマスター機器はいずれか1つにしてください



# 外部機器とのクロック同期 —接続例—

## クロックマスターである外部機器のクロックを他の端子にブリッジする場合

クロックマスター機器はいずれか1つにしてください



ブリッジ接続をすると、例えばクロックマスターの PO シリーズから、Lofi-6 に接続された volca や MIDI 機器などジャックの異なる機器を同期させることができます。



# MIDI

## MIDI 送受信チャンネルを設定する

1  +  を押し、MIDI チャンネルを設定したいトラックを選択。

T 1.CH

2  VALUE を回し、チャンネルを設定する。


T 4.CH

  
VALUE

MIDI Channel - Track

OFF、CH.01 ~ CH.16

## パターン用パラメーターの MIDI チャンネルを設定する

1  +  を押し、PT.CH を選択。

P T.CH

2  VALUE を回し、チャンネルを設定する。

  
VALUE

MIDI Channel - Pattern

OFF、CH.01 ~ CH.16

## 選択したトラックにアクセスするための MIDI チャンネルを設定する (オートチャンネル)

1  +  を押し、AT.CH を選択。

A T.CH

2  VALUE を回し、チャンネルを設定する。

  
VALUE

MIDI Channel - Auto

OFF、CH.01 ~ CH.16

# MIDI

## 鍵盤キーを弾いたときに出力される MIDI チャンネルを設定する

1  +  を押し、O.CH を選択。

O.CH

2  VALUE を回し、設定する。

  
VALUE

MIDI Channel - Out

TRCK (Track)、AUTO

## コントロールチェンジの送信を ON/OFF する

1  +  を押し、TX.CC を選択。

TX.CC

2  VALUE を回し、ON/OFF を設定する。

  
VALUE

Control Change

ON、OFF



・コントロールチェンジの受信は常に有効です。

## MIDI クロックの出力を ON/OFF する

1  +  を押し、TX.CK を選択。

TX.CK

2  VALUE を回し、ON/OFF を設定する。

  
VALUE

MIDI Clock

ON、OFF

# MIDI

## MIDI OUT の設定をする

1  +  を押し、M.OUT を選択。

M.OUT

2  VALUE を回し、MIDI OUT を設定する。

  
VALUE

MIDI OUT
OUT、THRU

## MIDI コマンドの送受信の設定をする

1  +  を押し、M.CMD を選択。

M.CMD

2  VALUE を回し、MIDI コマンドを設定する。

  
VALUE

MIDI Command	
OFF	送受信しない
Rx	受信のみ
Tx	送信のみ
RxTx	送受信する

## アクティブセンシングの送信の ON/OFF を設定する

1  +  を押し、TX.AS を選択。

TX.AS

2  VALUE を回し、ON/OFF を設定する。

  
VALUE

Active Sensing - Transmit
ON、OFF

# MIDI

## アクティブセンシングの受信の ON/OFF を設定する

1  +  を押し、RX.AS を選択。

RX.AS

2  VALUE を回し、ON/OFF を設定する。

  
VALUE

Active Sensing - Receive

ON、OFF

## プログラムチェンジの送受信チャンネルの設定をする

1  +  を押し、PC.CH を選択。

PC.CH

2  VALUE を回し、プログラムチェンジチャンネルを設定する。

  
VALUE

Program Change - Channel

AUTO CH.01 ~ CH.16

## プログラムチェンジの送信を ON/OFF する

1  +  を押し、TX.PC を選択。

TX.PC

2  VALUE を回し、ON/OFF を設定する。

  
VALUE

Program Change - Transmit

ON、OFF

# MIDI

---

## プログラムチェンジの受信を ON/OFF する

1  +  を押し、RX.PC を選択。



2  VALUE を回し、ON/OFF を設定する。

  
VALUE

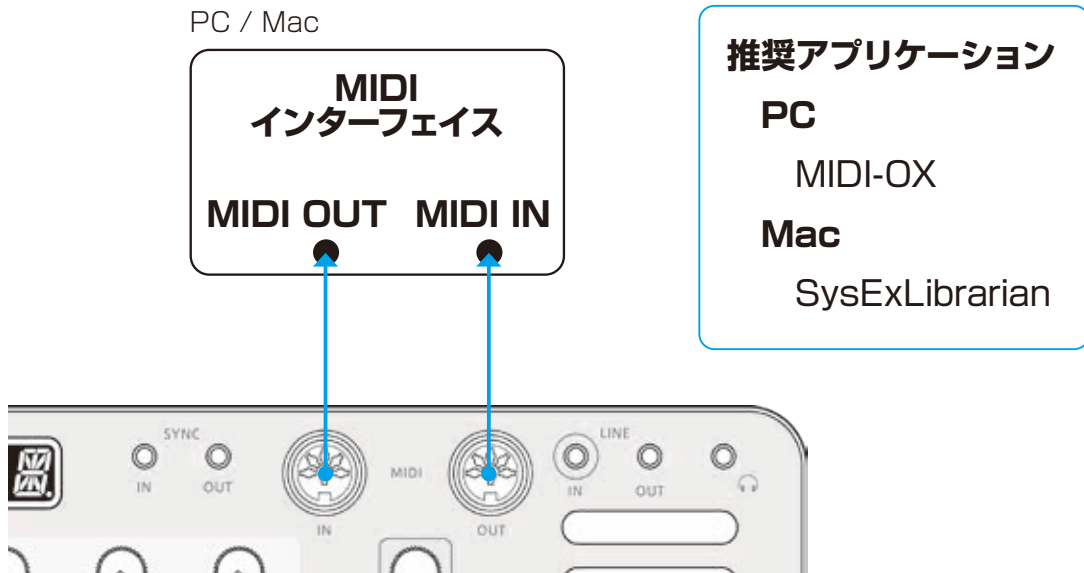
Program Change - Recieve

ON、OFF

# ユーザーデータのエクスポート・インポート

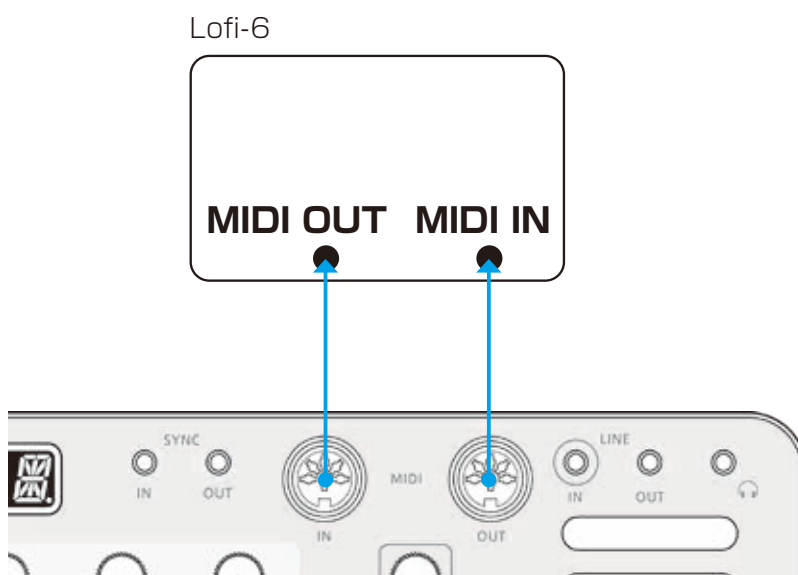
## 接続について

### － PC/Mac とエクスポート・インポートする場合－



## 接続について

### －もう一台の Lofi-6 とエクスポート・インポートする場合－



# ユーザーデータのエクスポート・インポート

---

## 1つのパターンをエクスポートする

1 エクスポートしたいパターンを選択する。(→ P.13)

2  +  を押し、P.EXP を選択。



3 MIDI データの受信側を待機状態にする。

4  を押す。



---

・  でキャンセルできます。

---

## 1つのパターンをインポートする

1 通常モードにし、送信側でデータの送信を開始する。



---

・受信したパターンは自動で保存されません。必要に応じてパターンを保存してください。(→ P.71)

---

# ユーザーデータのエクスポート・インポート

---

## ユーザーデータを丸ごとバックアップする






1  + POWER スイッチを押し、Lofi-6 を起動する。

2  VALUE を回し、EXPT を選択する。



3  を押す。



- 
- ・ステップ LED が進行状況を示します（ から順々に点灯していき、 が全て点灯したら転送完了）。
  - ・ でキャンセルできます。
  - ・バックアップデータサイズは 17,476,316 バイトです。
  - ・データサイズが異なる場合はバックアップに失敗している可能性があるの  
で、手順③の前に  を押しながら  VALUE を回して、通信間隔を大きく  
してください（初期値は 0 です）。
-



# ユーザーデータのエクスポート・インポート


---


## ユーザーデータを復元する

1  + POWER スイッチを押し、Lofi-6 を起動する。




2  VALUE を回し、IMPT を選択する。



3  を押す。受信待機状態になります。  
送信側でエクスポートを実行してください。

4 受信完了後にディスプレイに SAVE が表示され、  
 を押すと受信されたデータが復元されます。




- 
- ・ ステップ LED が進行状況を示します（ から順々に点灯していき、 が全て点灯したら転送完了）。
  - ・  でキャンセルできます。
-

# システム設定

## バッテリーの種類を設定する

1  +  を押し、BATT を選択。

BATT

2  VALUE を回し、バッテリーの種類を選択する。

  
VALUE

Battery	
ALKL	アルカリ乾電池
NIMH	ニッケル水素充電電池
LTHM	リチウム乾電池



- ・本体の使用時間に影響するため、正しく設定してください。
- ・充電式電池の種類によっては、実際より残量が多く表示される場合があります。

## オートパワーオフの設定をする

1  +  を押し、A.PWR を選択。

A.PWR

2  VALUE を回し、オートパワーオフ時間を選択する。

  
VALUE

Auto Power	
OFF	オートパワーオフしない
0.5H	操作が無くなってから30分後にオートパワーオフを行います
1H	操作が無くなってから1時間後にオートパワーオフを行います
3H	操作が無くなってから3時間後にオートパワーオフを行います
6H	操作が無くなってから6時間後にオートパワーオフを行います

# システム設定

## ヘッドフォンのゲインを設定する

1  +  を押す。

Headphone Gain	
LOUD	より大きな出力
NORM	工場出荷時
SOFT	より小さな出力

## マスターチューンを設定する

1  +  を押し、TUNE を選択。

TUNE



2  VALUE を回し、マスターチューンを選択する。



  
VALUE

Master Tune
-75 ~ 0 ~ +75 (単位 : Cent)

# システム設定

## ノブの動きの設定をする

1  +  を押し、ノブ操作時にラッチ処理をするか設定する。

Latch		
	Jump	ノブを操作したときに直ちにパラメーターが反映されます
	Latch	ノブの位置がパラメーター値に来るまではパラメーターが変化せず、ノブがパラメーター値に来た後は追従します



- ・ Latch の場合、ノブの位置とパラメーター値が左右のどちらにどの程度離れているかわかるようディスプレイのドットがアニメーションします。パラメーター値がノブ位置より小さい時はドットが左に流れるように点灯、大きい時は右方向に点灯します。値が離れているほど速く流れます。

# システム設定

## 工場出荷状態に戻す (ファクトリーリセット)

- 1 **3** + POWER スイッチを長押し、  
Lofi-6 を起動する。

- 2 **OK** を押す。  
ステップ LED で進行状況を表し、ディスプレイに  
OK と表示されたら完了です。



- ・ **CLR** でキャンセルできます。

- ・ サンプル波形は工場出荷状態に戻りませんので、弊社ホームページよりサンプル波形データをダウンロードしてからインポートしてください。

## システムのバージョンを確認する

- 1 **2** + POWER スイッチを長押し、  
Lofi-6 を起動する。

- 2 **1/3**、**2/4**、**PTN** を押して確認する。

メジャーバージョン  
マイナーバージョン

Firmware Version		
<b>1/3</b>	<b>5</b> .X.Y	システムバージョン
<b>2/4</b>	<b>B</b> .X.Y	ブートバージョン
<b>PTN</b>	<b>P</b> .X.Y	プリセットバージョン



- ・ もう一度同じ **1/3**、**2/4**、**PTN** を押すと、ビルド番号が表示されます。

# システム設定

---




## ファームウェアをアップデートする

- 1  + **POWER** スイッチを長押し、  
Lofi-6 を起動する。



- 2 PC / Mac からファームウェアを送信する  
(Sys.Ex データ)。



- ・ ステップ LED がデータ送信の進行状況を表します（ から順々に点灯していき、 ~  が全て点灯したら転送完了です）。
- 


- 3 受信が完了したら  キーを押して  
アップデートを実行する。



- ・ アップデートが正常に行われた場合はディスプレイに OK と表示されます(異常があった場合エラーコードが表示されます)。
- 

- 4 本体を再起動する。



- ・ 新品の電池もしくは AC アダプターをご使用ください。
  - ・ ファームウェアのアップデート中は、絶対に電源を切らないでください。
  - ・  でアップデートをキャンセルし、通常起動します。
-

# システム設定

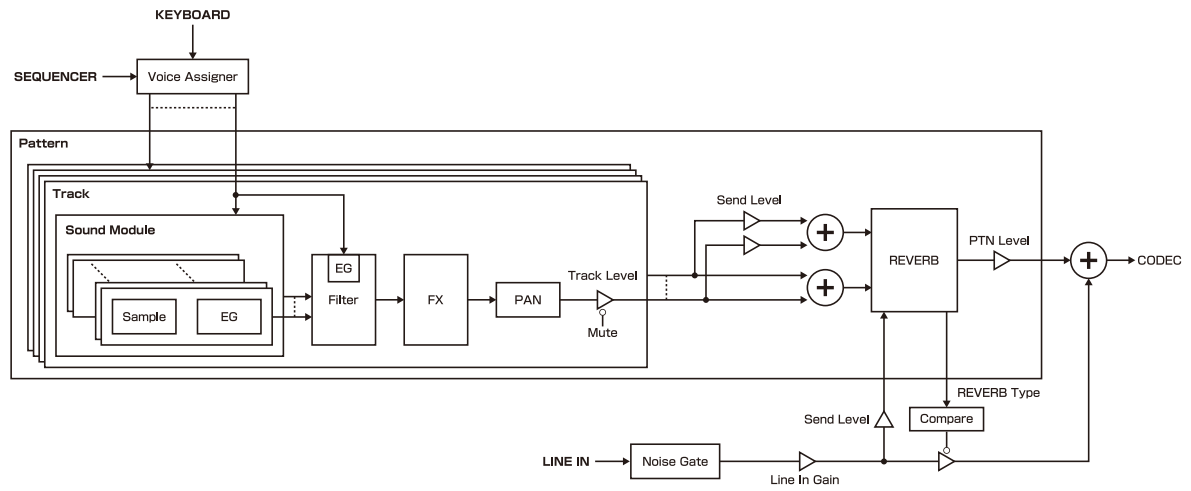
---

## エラーコード一覧

ER.10	システムエラー
ER.11	Low Battery
ER.20	データ受信エラー
ER.21	不正データ
ER.22	アップデート不要 (Boot)
ER.30	アップデート失敗

# 付録

## 図 1 サウンドアーキテクチャ





# 仕様

<p>サンプラー</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・16bit - 6kHz リニア PCM サンプリング (モノラル)</li> <li>・真空管サウンドを再現する TUBE モード</li> <li>・1 サンプル最大 8 秒のサンプリング</li> <li>・入力レベルによるオートスタート・サンプリング機能 (入力レベル設定可能)</li> <li>・スタート/エンド・ポジション、アタック、リリース、ピッチ、レベル調整可能</li> <li>・リバーブ再生</li> <li>・サスティンループ設定</li> <li>・リサンプリング機能</li> <li>・Downbeat Divider によるオートスライス機能</li> <li>・最大同時発音数 10 ボイス</li> <li>・128 サンプル・メモリスロット (16 × 8 バンク)</li> <li>・サンプルのスロット単位またはバンク単位のインポート / エクスポート (MIDI 経由)</li> </ul> <p>&lt;ボイスモード&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10 音ポリフォニックモード</li> <li>・モノモード (グライド時間 調整可能)</li> <li>・レガートモード (グライド時間 調整可能)</li> <li>・アルペジエーターモード (Up, Down, UpDown, DownUp, Up&amp;Down, Down&amp;Up, Up+1, Up+2, Down-1, Down-2, Random, Play Order)</li> <li>・ドラムモード (ポリフォニック再生、Downbeat Divider で1スライスの長さを設定)</li> <li>・チョップモード (モノ/チョーク再生、Downbeat Divider で1スライスの長さを設定)</li> </ul> <p>&lt;フィルター&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・LPF</li> <li>・HPF</li> <li>・BPF</li> </ul> <p>フィルター用エンベローブジェネレーター装備</p> <p>&lt; LFO &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピッチ、フィルターへアサイン可能な LFO をトラック毎に 1 基装備 (個別に調整可能)</li> <li>・LFO タイプ、開始の遅延時間の設定可能</li> </ul> <p>&lt; SWEEP &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SWEEP (スピード、レンジ、カーブを調整可能)</li> </ul>
<p>エフェクト</p>	<p>&lt;トラック・エフェクト&gt;</p> <p>トラック毎にエフェクト 1 基搭載</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Chorus</li> <li>・Flanger</li> <li>・Tremolo</li> <li>・Delay</li> <li>・Distortion</li> <li>・Bit Crusher</li> <li>・Low Pass Filter</li> <li>・High Pass Filter</li> <li>・Isolator</li> <li>・Tilt EQ</li> <li>・Compressor</li> <li>・S.Maximizer</li> </ul>

# 仕様

<p>エフェクト</p>	<p>&lt;マスター・エフェクト&gt; トラック毎にマスターエフェクトへのセンド量の調整可能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Hall</li> <li>・Room</li> <li>・Arena</li> <li>・Plate</li> <li>・Tunnels</li> <li>・Infinity</li> <li>・Cassette Tape Simulator (without hum noise)</li> <li>・Vinyl Simulator</li> <li>・Remix performance effect</li> </ul>
<p>シーケンサー</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4トラック</li> <li>・最大 64 ステップ</li> <li>・64 パターン</li> <li>・ノート長 1/1 ~ 1/32</li> <li>・リアルタイム / ノンリアルタイム・レコーディング</li> <li>・ステップへの直接ノート入力</li> <li>・ロングノート・タイに対応</li> <li>・メトロノーム、プリカウント機能</li> <li>・ステップのコピー&amp;ペースト機能</li> <li>・トラックのコピー&amp;ペースト機能</li> <li>・シーケンスの拡張コピー機能</li> <li>・トランスポーズ機能</li> <li>・Swing 機能</li> <li>・パターン BPM / グローバル BPM を設定可能</li> <li>・パターン・チェーン再生機能 (ループ再生可能)</li> <li>・トラック・レベル / パンを調整可能</li> <li>・ステップ毎にパラメーター設定を記録できる Parameter Lock 機能</li> <li>・ステップ毎にサウンド設定を記録できる Sound Lock 機能</li> <li>・ステップをランダムに再生する RANDOM 機能</li> <li>・押しているステップのみを再生する STUTTER 機能</li> <li>・ノートの発音確率を 25 ~ 100% に設定できる DICE 機能</li> </ul>
<p>MIDI</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート、コントロールチェンジ、クロック入出力</li> <li>・ユーザー・データの IMPORT/EXPORT</li> <li>・ファームウェアのアップデート</li> </ul>
<p>本体</p>	<p>&lt;鍵盤&gt; 27 鍵盤 (ホールド機能付)</p> <p>&lt;ノブ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・15 個のフィジカル・コントロールノブ (サブパラメーター調整時に便利な現在値にノブの物理位置が到達するまで音色変化を行わない LATCH 機能付)</li> <li>・1 個のフィジカル・エンコーダー (ファインコントロール可能)</li> </ul> <p>&lt;オーディオ入力&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・LINE IN (ステレオ・ミニジャック) / PO シリーズ互換オーディオ SYNC IN 機能付</li> </ul> <p>&lt;オーディオ出力&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ステレオ LINE OUT (ステレオ・ミニジャック)</li> <li>・ヘッドホン・アウト (ステレオ・ミニジャック) / PO シリーズ互換オーディオ SYNC OUT 機能付</li> <li>・内蔵スピーカー</li> </ul>

# 仕様

本体	<p>&lt;端子類&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・MIDI IN 端子 (DIN 型)</li><li>・MIDI OUT 端子 (DIN 型)</li><li>・SYNC IN 端子 (モノラル・ミニジャック)</li><li>・SYNC OUT 端子 (モノラル・ミニジャック)</li></ul> <p>&lt;外形&gt;</p> <p>297mm (W) × 176mm (D) × 48mm(H)</p> <p>&lt;重量&gt;</p> <p>約 790g</p> <p>&lt;電源&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・DC9V 出力 AC アダプター (1A 以上、EIAJ3 規格 内径 1.7mm 外径 4.75mm、センター +)</li><li>・単三電池x 6 本</li></ul> <p>※<b>電池、AC アダプターは付属しません。</b></p> <p>DC9V 出力 AC アダプター (1A 以上、EIAJ3 規格 内径 1.7mm 外径 4.75mm、センター +) をご使用ください。</p>
付属品	<ul style="list-style-type: none"><li>・保証書</li><li>・サンプリング&amp;エディット用オーバーレイシート (Lofi-12 と兼用)</li></ul>